

教科 No.	2107	授業科目	芸術学概論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 美学および芸術理論の基礎的なものの考え方を概観する。とくに「感性」という語をキーワードとして、そこから生起する想像力の意味をさぐる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 美学あるいは感性論の名のもとに切り開かれた地平を検証し、基礎的な理論を順次踏査するとともに、その今日的意味と可能性を問い直す。なお、芸術の具体的な現象分析が不可欠なので、画像など視聴覚メディアを最大限に活用する予定である。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 芸術の歴史性</td> </tr> <tr> <td>2. 美学のなりたち1</td> <td>10. 造形芸術における時間</td> </tr> <tr> <td>3. 美学のなりたち2</td> <td>11. 芸術の起源へ</td> </tr> <tr> <td>4. 美について1</td> <td>12. 芸術作品の構造</td> </tr> <tr> <td>5. 美について2</td> <td>13. 現代社会と芸術1</td> </tr> <tr> <td>6. 美的体験</td> <td>14. 現代社会と芸術2</td> </tr> <tr> <td>7. 美的価値</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 解釈</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポートまたは筆記試験。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 『西洋美学史』小田部 胤久 2,940円 ※備考 美学と合同授業</p>						1. イントロダクション	9. 芸術の歴史性	2. 美学のなりたち1	10. 造形芸術における時間	3. 美学のなりたち2	11. 芸術の起源へ	4. 美について1	12. 芸術作品の構造	5. 美について2	13. 現代社会と芸術1	6. 美的体験	14. 現代社会と芸術2	7. 美的価値	15. まとめ	8. 解釈	
1. イントロダクション	9. 芸術の歴史性																				
2. 美学のなりたち1	10. 造形芸術における時間																				
3. 美学のなりたち2	11. 芸術の起源へ																				
4. 美について1	12. 芸術作品の構造																				
5. 美について2	13. 現代社会と芸術1																				
6. 美的体験	14. 現代社会と芸術2																				
7. 美的価値	15. まとめ																				
8. 解釈																					

教科 No.	2302	授業科目	工芸概説	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本の工芸に関する一般知識を身につけ、素材・技法・意匠などの基礎用語を理解する。 歴史的作例から現代作品まで、日本・アジア・ヨーロッパ等の幅広い作品を鑑賞し、工芸とは何かを考えてゆく。</p> <p><b>【授業概要】</b> 日本・アジア・ヨーロッパの歴史上の作例や今日の作例を、画像を用いて紹介する。材質・技法・意匠に関して解説する。 工芸の多様なあり方を示し、工芸とは何かを考える授業にしたい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ガラス</td> </tr> <tr> <td>2. 工芸の概念の変化</td> <td>10. ビーズ</td> </tr> <tr> <td>3. 陶磁</td> <td>11. 染織(染め)</td> </tr> <tr> <td>4. 漆工</td> <td>12. 染織(織り)</td> </tr> <tr> <td>5. 木・竹工</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 紙</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 桂離宮にみる材料や意匠</td> <td>15. レポートの紹介</td> </tr> <tr> <td>8. 浮世絵にみる材料・技・表現</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・レポート内容・レポート紹介を総合して評価します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 授業の後半に、学生がレポートを提出します。授業の最終日に、提出物を返却します。この時、提出物の内容を各自が簡単に紹介する時間を設けますので、時間通り出席のこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 教科書は使用しない。プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 必要に応じて、授業中に指示する ※備考 工芸学概論と合同授業です。</p>						1. オリエンテーション	9. ガラス	2. 工芸の概念の変化	10. ビーズ	3. 陶磁	11. 染織(染め)	4. 漆工	12. 染織(織り)	5. 木・竹工	13. まとめ	6. 紙	14. まとめ	7. 桂離宮にみる材料や意匠	15. レポートの紹介	8. 浮世絵にみる材料・技・表現	
1. オリエンテーション	9. ガラス																				
2. 工芸の概念の変化	10. ビーズ																				
3. 陶磁	11. 染織(染め)																				
4. 漆工	12. 染織(織り)																				
5. 木・竹工	13. まとめ																				
6. 紙	14. まとめ																				
7. 桂離宮にみる材料や意匠	15. レポートの紹介																				
8. 浮世絵にみる材料・技・表現																					

教科 No.	2303	授業科目	日本美術史概説	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田島達也			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本美術史についての基本知識を身につける。専門用語、ジャンルや時代区分を知り、各時代の代表的な作品の特徴を理解する。</p> <p><b>【授業概要】</b> ほぼ時代順に日本美術の代表的な作品を紹介する。特に絵画史を中心とする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日本美術史の基本文献、情報検索法</td> <td>9. 浮世絵</td> </tr> <tr> <td>2. 仏教美術1</td> <td>10. 写生画</td> </tr> <tr> <td>3. 仏教美術2</td> <td>11. 文人画</td> </tr> <tr> <td>4. やまと絵・絵巻</td> <td>12. 工芸と絵画</td> </tr> <tr> <td>5. 中世絵画</td> <td>13. 近代日本画</td> </tr> <tr> <td>6. 狩野派1</td> <td>14. 京都芸大と近代美術</td> </tr> <tr> <td>7. 狩野派2</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 近世初期風俗画</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業内容にもとづくペーパーテストをおこなう。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に指示する。</p>						1. 日本美術史の基本文献、情報検索法	9. 浮世絵	2. 仏教美術1	10. 写生画	3. 仏教美術2	11. 文人画	4. やまと絵・絵巻	12. 工芸と絵画	5. 中世絵画	13. 近代日本画	6. 狩野派1	14. 京都芸大と近代美術	7. 狩野派2	15. まとめと試験	8. 近世初期風俗画	
1. 日本美術史の基本文献、情報検索法	9. 浮世絵																				
2. 仏教美術1	10. 写生画																				
3. 仏教美術2	11. 文人画																				
4. やまと絵・絵巻	12. 工芸と絵画																				
5. 中世絵画	13. 近代日本画																				
6. 狩野派1	14. 京都芸大と近代美術																				
7. 狩野派2	15. まとめと試験																				
8. 近世初期風俗画																					

教科 No.	2304	授業科目	東洋美術史概説 1		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	定金計次				開講学期	前期
履修条件				履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 インド美術を中心とした東洋美術史の基礎知識を身につけるとともに、美術の歴史的展開の仕方や美術作品の基本的な見方を学ぶ。						
【授業概要】 インド仏教彫刻史：仏教彫刻が、インドにおいて古代から中世まで、どのように成立し展開したかを、宗教や他の文化領域との係わりを明らかにしながら講述する。インド仏教彫刻の特質を探るとともに、美術作品の鑑賞方法を訓練する。						
【授業内容】						
1. インドおよびインド美術について；インド彫刻および仏教美術の始まり						
2. 古代1：ポスト・マウリア時代（1）ストゥーパ欄楯・塔門浮彫						
3. 古代2：ポスト・マウリア時代（2）ストゥーパ欄楯・塔門浮彫						
4. 古代3：ポスト・マウリア時代（3）石窟寺院浮彫						
5. 古代4：クシャーナ時代（1）仏像の成立；ガンダーラ彫刻						
6. 古代5：クシャーナ時代（2）マトゥラー彫刻						
7. 古代6：クシャーナ時代（3）石窟寺院浮彫；アーンドラ地方の彫刻						
8. 古代7：グプタ時代（1）マトゥラー彫刻；中部インドの彫刻						
9. 古代8：グプタ時代（2）サールナート彫刻；石窟寺院彫刻						
10. 古代9：ポスト・グプタ時代						
11. 中世1：中世前期（1）						
12. 中世2：中世前期（2）						
13. 中世3：中世前期（3）						
14. 中世4：中世中期（1）						
15. 中世5：中世中期（2）						
【評価方法】 期末試験（あらかじめ公表した課題について論述して貰う）の結果、および出席回数を主にした平常点を総合して評価する。						
【履修上の注意】 既存の書物に従って講述するような授業ではないから、欠席すると授業の流れを把握し難くなる虞が大きい。毎回出席することを常識と心得て欲しい。						
【教科書】 なし。						
【参考書等】 授業中に紹介する。						
※備考 専門的知識は、特に必要としない。						
専門的知識を出来るだけ平易に解説すると共に、日常接することが少ないインド彫刻の現地で撮影した写真を出来るだけ多く映写し、作品に対する理解を深めるように努める。						

教科 No.	2305	授業科目	東洋美術史概説 2		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	定金計次				開講学期	後期
履修条件				履修学年・専攻等	1年次以上	
【授業目標】 インド美術を中心とした東洋美術史の基礎知識を身につけるとともに、美術の歴史的展開の仕方や美術作品の基本的な見方を学ぶ。						
【授業概要】 インド・ヒンドゥー教彫刻史：インドにおいてヒンドゥー教彫刻が、どのように成立し展開したかを、宗教や他の文化領域との係わりを明らかにしながら講述する。インド・ヒンドゥー教彫刻の特質を探るとともに、美術作品の鑑賞方法を訓練する。						
【授業内容】						
1. インドおよびヒンドゥー教について；インド彫刻の始まり						
2. 古代1：ヒンドゥー教の展開とヒンドゥー教彫刻の成立						
3. 古代2：ポスト・マウリア時代およびクシャーナ時代						
4. 古代3：ヒンドゥー教の神々						
5. 古代4：グプタ時代（1）						
6. 古代5：グプタ時代（2）						
7. 古代6：ポスト・グプタ時代（1）						
8. 古代7：ポスト・グプタ時代（2）						
9. 中世1：中世前期（1）寺院建築と彫刻との関係；北インド						
10. 中世2：中世前期（2）南インド						
11. 中世3：中世中期（1）北インド						
12. 中世4：中世中期（2）北インド						
13. 中世5：中世中期（3）南インド						
14. 中世6：中世中期（4）南インド						
15. 中世7：中世後期						
【評価方法】 期末試験（あらかじめ公表した課題について論述して貰う）の結果、および出席回数を主にした平常点を総合して評価する。						
【履修上の注意】 既存の書物に従って講述するような授業ではないから、欠席すると授業の流れを把握し難くなる虞が大きい。毎回出席することを常識と心得て欲しい。						
【教科書】 なし。						
【参考書等】 授業中に紹介する。						
※備考 専門的知識は、特に必要としない。						
専門的知識を出来るだけ平易に解説すると共に、日常接することが少ないインド彫刻の現地で撮影した写真を出来るだけ多く映写し、作品に対する理解を深めるように努める。						

教科 No.	2306	授業科目	西洋美術史概説 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	潮江宏三			開講学期	前期																
履修条件	高校時代の西洋史の教科書や参考書を読み、西洋中世から絶対主義王朝時代の歴史を勉強しておいてください。		履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋美術理解のための基本的知識と見方を身につけることを第一の目標とします。あわせて、芸術表現の背景にある感性や価値観の理解を通して、西洋文化の理解を深めていきます。</p> <p><b>【授業概要】</b> 「ヨーロッパ」の原像が形成される中世後期から盛期ルネサンスまでの展開を絵画史を中心に講義します。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 西洋美術とは何か？</td> <td>9. 初期ネーデルランド絵画 1</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンスとは何か？</td> <td>10. 初期ネーデルランド絵画 1</td> </tr> <tr> <td>3. 中世の文化と美術</td> <td>11. 15世紀後半のイタリア絵画 1</td> </tr> <tr> <td>4. 中世後期の絵画 1</td> <td>12. 15世紀後半のイタリア絵画 2</td> </tr> <tr> <td>5. 中世後期の絵画 2</td> <td>13. 盛期ルネサンスの絵画 1</td> </tr> <tr> <td>6. 15世紀前半のイタリア絵画 1</td> <td>14. 盛期ルネサンスの絵画 2</td> </tr> <tr> <td>7. 15世紀前半のイタリア絵画 2</td> <td>15. 盛期ルネサンスの絵画 3</td> </tr> <tr> <td>8. 15世紀前半のイタリア絵画 3</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 期末に筆記試験をおこない、それに出席点を加味して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 可能な限り多くスライドを映写するので、鑑賞体験を積んで欲しい。また、作家名については、原語で綴るので憶えるようにすること。</p> <p><b>【教科書】</b> 教科書として『西洋美術史案内』（実費 1,000 円）を購入すること。参考資料は別途配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 参考図書に関しては、授業中に指示する。</p> <p>※備考 音楽学部との合同授業</p>						1. 西洋美術とは何か？	9. 初期ネーデルランド絵画 1	2. ルネサンスとは何か？	10. 初期ネーデルランド絵画 1	3. 中世の文化と美術	11. 15世紀後半のイタリア絵画 1	4. 中世後期の絵画 1	12. 15世紀後半のイタリア絵画 2	5. 中世後期の絵画 2	13. 盛期ルネサンスの絵画 1	6. 15世紀前半のイタリア絵画 1	14. 盛期ルネサンスの絵画 2	7. 15世紀前半のイタリア絵画 2	15. 盛期ルネサンスの絵画 3	8. 15世紀前半のイタリア絵画 3	
1. 西洋美術とは何か？	9. 初期ネーデルランド絵画 1																				
2. ルネサンスとは何か？	10. 初期ネーデルランド絵画 1																				
3. 中世の文化と美術	11. 15世紀後半のイタリア絵画 1																				
4. 中世後期の絵画 1	12. 15世紀後半のイタリア絵画 2																				
5. 中世後期の絵画 2	13. 盛期ルネサンスの絵画 1																				
6. 15世紀前半のイタリア絵画 1	14. 盛期ルネサンスの絵画 2																				
7. 15世紀前半のイタリア絵画 2	15. 盛期ルネサンスの絵画 3																				
8. 15世紀前半のイタリア絵画 3																					

教科 No.	2307	授業科目	西洋美術史概説 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	潮江宏三			開講学期	後期																
履修条件	高校時代の西洋史の教科書や参考書を勉強しておいてください。		履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋美術理解のための基本的知識と見方を身につけることを第一の目標とします。あわせて、芸術表現の背景にある感性や価値観の理解を通して、西洋文化の理解を深めていきます。</p> <p><b>【授業概要】</b> ヨーロッパ文化がその性格を明確にする盛期ルネサンス時代からバロック時代までの美術の展開を絵画史を中心に論じます。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 盛期ルネサンス</td> <td>9. バロック美術とは？</td> </tr> <tr> <td>2. 盛期ルネサンス</td> <td>10. イタリアのバロック絵画 1</td> </tr> <tr> <td>3. マニエリスムの芸術 1</td> <td>11. イタリアのバロック絵画 2</td> </tr> <tr> <td>4. マニエリスムの芸術 2</td> <td>12. バロック絵画 1ーフランドル</td> </tr> <tr> <td>5. マニエリスムの芸術 3</td> <td>13. バロック絵画 2ースペイン</td> </tr> <tr> <td>6. マニエリスムの芸術 4</td> <td>14. バロック絵画 3ーフランス</td> </tr> <tr> <td>7. ヴェネツィア派の絵画 1</td> <td>15. 17世紀オランダ絵画</td> </tr> <tr> <td>8. ヴェネツィア派の絵画 2</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 期末に筆記試験を行い、それに出席点を加味して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 可能な限り多くのスライドを映写するので、鑑賞体験を積んでほしい。また、作家名については、原語で綴るので憶えるようにすること。</p> <p><b>【教科書】</b> 教科書として『西洋美術史案内』（実費 1,000 円）を購入すること。参考資料は別途配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 参考図書に関しては、授業中に指示する。</p> <p>※備考 音楽学部との合同授業</p>						1. 盛期ルネサンス	9. バロック美術とは？	2. 盛期ルネサンス	10. イタリアのバロック絵画 1	3. マニエリスムの芸術 1	11. イタリアのバロック絵画 2	4. マニエリスムの芸術 2	12. バロック絵画 1ーフランドル	5. マニエリスムの芸術 3	13. バロック絵画 2ースペイン	6. マニエリスムの芸術 4	14. バロック絵画 3ーフランス	7. ヴェネツィア派の絵画 1	15. 17世紀オランダ絵画	8. ヴェネツィア派の絵画 2	
1. 盛期ルネサンス	9. バロック美術とは？																				
2. 盛期ルネサンス	10. イタリアのバロック絵画 1																				
3. マニエリスムの芸術 1	11. イタリアのバロック絵画 2																				
4. マニエリスムの芸術 2	12. バロック絵画 1ーフランドル																				
5. マニエリスムの芸術 3	13. バロック絵画 2ースペイン																				
6. マニエリスムの芸術 4	14. バロック絵画 3ーフランス																				
7. ヴェネツィア派の絵画 1	15. 17世紀オランダ絵画																				
8. ヴェネツィア派の絵画 2																					

教科 No.	2308	授業科目	デザイン史概説	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	渡辺眞			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 近代デザインの大きな流れを把握し、各自で関心を持てる領域や人物を発見することを目指す。</p> <p><b>【授業概要】</b> 19世紀後半以後のデザイナーや団体の活動・製品・意義について概説する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 主旨説明</td> <td>9. カー・デザインの歴史</td> </tr> <tr> <td>2. 近代デザイン以前</td> <td>10. モダニズムの建築とデザイン</td> </tr> <tr> <td>3. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動</td> <td>11. ポストモダニズムの建築とデザイン</td> </tr> <tr> <td>4. アール・ヌーヴォーとウィーン工房とアール・デコ</td> <td>12. 戦後のグラフィック・デザイン</td> </tr> <tr> <td>5. バウハウス1</td> <td>13. デザインと地域性—北欧のデザイン</td> </tr> <tr> <td>6. バウハウス2</td> <td>14. グリーン・デザインとユニヴァーサル・デザイン</td> </tr> <tr> <td>7. 大量生産品のデザイン—アメリカの工業デザイン</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 第2次大戦以前のグラフィック・デザイン</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・小論文・レポート試験。</p>						1. 主旨説明	9. カー・デザインの歴史	2. 近代デザイン以前	10. モダニズムの建築とデザイン	3. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	11. ポストモダニズムの建築とデザイン	4. アール・ヌーヴォーとウィーン工房とアール・デコ	12. 戦後のグラフィック・デザイン	5. バウハウス1	13. デザインと地域性—北欧のデザイン	6. バウハウス2	14. グリーン・デザインとユニヴァーサル・デザイン	7. 大量生産品のデザイン—アメリカの工業デザイン	15. まとめ	8. 第2次大戦以前のグラフィック・デザイン	
1. 主旨説明	9. カー・デザインの歴史																				
2. 近代デザイン以前	10. モダニズムの建築とデザイン																				
3. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	11. ポストモダニズムの建築とデザイン																				
4. アール・ヌーヴォーとウィーン工房とアール・デコ	12. 戦後のグラフィック・デザイン																				
5. バウハウス1	13. デザインと地域性—北欧のデザイン																				
6. バウハウス2	14. グリーン・デザインとユニヴァーサル・デザイン																				
7. 大量生産品のデザイン—アメリカの工業デザイン	15. まとめ																				
8. 第2次大戦以前のグラフィック・デザイン																					

教科 No.	2309	授業科目	芸術学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          芸術に関する理論的省察を深めることを目的とする。とくに芸術学1は、実験的表現を目指すオルタナティブな動きを視野に入れながら、それらが今日においてどのように機能しているのかを考える。</p> <p><b>【授業概要】</b>          技術の飛躍的發展に伴って、近年多様化の一途をたどる現代美術の様々なあり方について考察を行う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. ポピュラーカルチャーと前衛2</td> </tr> <tr> <td>2. オルタナティブの今1</td> <td>10. ポピュラーカルチャーと前衛3</td> </tr> <tr> <td>3. オルタナティブの今2</td> <td>11. 芸術概念の拡張1</td> </tr> <tr> <td>4. オルタナティブの今3</td> <td>12. 芸術概念の拡張2</td> </tr> <tr> <td>5. アニメーションの実践1</td> <td>13. 芸術概念の拡張3</td> </tr> <tr> <td>6. アニメーションの実践2</td> <td>14. まとめ1</td> </tr> <tr> <td>7. アニメーションの実践3</td> <td>15. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>8. ポピュラーカルチャーと前衛1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          レポートまたは筆記試験</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b>          授業中に指示する</p>						1. イントロダクション	9. ポピュラーカルチャーと前衛2	2. オルタナティブの今1	10. ポピュラーカルチャーと前衛3	3. オルタナティブの今2	11. 芸術概念の拡張1	4. オルタナティブの今3	12. 芸術概念の拡張2	5. アニメーションの実践1	13. 芸術概念の拡張3	6. アニメーションの実践2	14. まとめ1	7. アニメーションの実践3	15. まとめ2	8. ポピュラーカルチャーと前衛1	
1. イントロダクション	9. ポピュラーカルチャーと前衛2																				
2. オルタナティブの今1	10. ポピュラーカルチャーと前衛3																				
3. オルタナティブの今2	11. 芸術概念の拡張1																				
4. オルタナティブの今3	12. 芸術概念の拡張2																				
5. アニメーションの実践1	13. 芸術概念の拡張3																				
6. アニメーションの実践2	14. まとめ1																				
7. アニメーションの実践3	15. まとめ2																				
8. ポピュラーカルチャーと前衛1																					

教科 No.	2310	授業科目	芸術学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          芸術に関する理論的省察を深めることを目的とする。とくに芸術学2は、個別的・具体的研究に重点をおく。</p> <p><b>【授業概要】</b>          ヨーロッパの中央に位置するポーランドの、20世紀から21世紀にかけての芸術について取り上げる。それが歴史においてどのような役割をにない、またヨーロッパ文化圏のなかでどのような共通性と特殊性を持つのかを考えつつ、芸術の持つ可能性について探りたい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. ポスト冷戦とポーランド美術2</td> </tr> <tr> <td>2. 国際様式としての前衛1</td> <td>10. ポスト冷戦とポーランド美術3</td> </tr> <tr> <td>3. 国際様式としての前衛2</td> <td>11. ポーランド映画1</td> </tr> <tr> <td>4. 第二次世界大戦のもたらしたもの</td> <td>12. ポーランド映画2</td> </tr> <tr> <td>5. 冷戦期のネオ前衛1</td> <td>13. ポーランド映画3</td> </tr> <tr> <td>6. 冷戦期のネオ前衛2</td> <td>14. まとめ1</td> </tr> <tr> <td>7. 冷戦期のネオ前衛3</td> <td>15. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>8. ポスト冷戦とポーランド美術1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          レポートまたは筆記試験</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b>          『アヴァンギャルド宣言—中東欧のモダニズム』三元社 3,465円、『ポーランドの建築・デザイン史—工芸復興からモダニズムへ』彩流社 3,150円</p>						1. ガイダンス	9. ポスト冷戦とポーランド美術2	2. 国際様式としての前衛1	10. ポスト冷戦とポーランド美術3	3. 国際様式としての前衛2	11. ポーランド映画1	4. 第二次世界大戦のもたらしたもの	12. ポーランド映画2	5. 冷戦期のネオ前衛1	13. ポーランド映画3	6. 冷戦期のネオ前衛2	14. まとめ1	7. 冷戦期のネオ前衛3	15. まとめ2	8. ポスト冷戦とポーランド美術1	
1. ガイダンス	9. ポスト冷戦とポーランド美術2																				
2. 国際様式としての前衛1	10. ポスト冷戦とポーランド美術3																				
3. 国際様式としての前衛2	11. ポーランド映画1																				
4. 第二次世界大戦のもたらしたもの	12. ポーランド映画2																				
5. 冷戦期のネオ前衛1	13. ポーランド映画3																				
6. 冷戦期のネオ前衛2	14. まとめ1																				
7. 冷戦期のネオ前衛3	15. まとめ2																				
8. ポスト冷戦とポーランド美術1																					

教科 No.	2311	授業科目	現代芸術論 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	渡辺眞			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 造形分野の相互関係の中での現代美術の位置について考える機会を与える。</p> <p><b>【授業概要】</b> ファインアート・デザイン・工芸・写真・マンガ・アニメーション・メディアアート等、様々な造形分野の歴史的・現代的な様相の変化を取り上げ、それらを比較しつつ、現代のファインアートの位置を問う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 主旨説明</td> <td>9. キャラとアート</td> </tr> <tr> <td>2. ファインアートとは？</td> <td>10. メディアアート—インターラクティブな関係</td> </tr> <tr> <td>3. 1980年代の現代美術の動向</td> <td>11. 美術館の外へ出るアート</td> </tr> <tr> <td>4. 1990年代の現代美術の動向</td> <td>12. 町に出るアート—関係を求めて</td> </tr> <tr> <td>5. 生活造形の現在—デザイン</td> <td>13. 現代美術における世界と日本—村上隆を例に—</td> </tr> <tr> <td>6. 生活造形の現在—工芸</td> <td>14. ファインアートと文化</td> </tr> <tr> <td>7. 写真—ドキュメンテーションとアート</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. マンガ—マスカルチャーとアート</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・小論文・レポート試験を総合的に評価する。</p>						1. 主旨説明	9. キャラとアート	2. ファインアートとは？	10. メディアアート—インターラクティブな関係	3. 1980年代の現代美術の動向	11. 美術館の外へ出るアート	4. 1990年代の現代美術の動向	12. 町に出るアート—関係を求めて	5. 生活造形の現在—デザイン	13. 現代美術における世界と日本—村上隆を例に—	6. 生活造形の現在—工芸	14. ファインアートと文化	7. 写真—ドキュメンテーションとアート	15. まとめ	8. マンガ—マスカルチャーとアート	
1. 主旨説明	9. キャラとアート																				
2. ファインアートとは？	10. メディアアート—インターラクティブな関係																				
3. 1980年代の現代美術の動向	11. 美術館の外へ出るアート																				
4. 1990年代の現代美術の動向	12. 町に出るアート—関係を求めて																				
5. 生活造形の現在—デザイン	13. 現代美術における世界と日本—村上隆を例に—																				
6. 生活造形の現在—工芸	14. ファインアートと文化																				
7. 写真—ドキュメンテーションとアート	15. まとめ																				
8. マンガ—マスカルチャーとアート																					

教科 No.	2312	授業科目	現代芸術論 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 現代美術の方法的基盤となった20世紀美術におけるさまざまな造形思考を、単なる知識や情報としてではなく、批判的に展開可能な生きた原理として捉え、表現者として必要な歴史感覚や方法意識を養う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【美術の部屋 その1】美術作品の制作と展示は、それが行われる空間とどのように関わるのか？モダニズム以後の美術作品の制作と展示のあり方を、仕切られた空間としての「部屋」との相互作用という観点から考察し、作品概念の変化とその意味を探る。前期では主に20世紀半ばまでを対象とする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：美術の部屋 (1) なぜ「部屋」か？</td> <td>9. モダニズムの部屋 (9) 画面/壁/部屋/都市</td> </tr> <tr> <td>2. モダニズムの部屋 (1) アトリエの時間その1</td> <td>10. モダニズムの部屋 (10) レディメイド発生空間</td> </tr> <tr> <td>3. モダニズムの部屋 (2) アトリエの時間その2</td> <td>11. モダニズムの部屋 (11) メルツ・パウ</td> </tr> <tr> <td>4. モダニズムの部屋 (4) 描く部屋/描かれた部屋</td> <td>12. モダニズムの部屋 (12) 造形生態系としての部屋</td> </tr> <tr> <td>5. モダニズムの部屋 (5) 光の部屋</td> <td>13. モダニズムの部屋 (13) 偶像破壊の部屋</td> </tr> <tr> <td>6. モダニズムの部屋 (6) コーナーにて</td> <td>14. モダニズムの部屋 (14) ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. モダニズムの部屋 (7) 無重力の部屋</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. モダニズムの部屋 (8) プロウン・ルーム</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度と複数の課題およびレポートの提出状況をもとに総合的に評価する。試験や最終レポートのみの評価は行わないので注意すること。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 単なる講義形式の授業ではない。しばしばリサーチや演習課題が出される。それらの提出状況と内容が評価対象となるので注意すること。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 授業計画は、進行状況に応じて変更される場合がある。</p>						1. イントロダクション：美術の部屋 (1) なぜ「部屋」か？	9. モダニズムの部屋 (9) 画面/壁/部屋/都市	2. モダニズムの部屋 (1) アトリエの時間その1	10. モダニズムの部屋 (10) レディメイド発生空間	3. モダニズムの部屋 (2) アトリエの時間その2	11. モダニズムの部屋 (11) メルツ・パウ	4. モダニズムの部屋 (4) 描く部屋/描かれた部屋	12. モダニズムの部屋 (12) 造形生態系としての部屋	5. モダニズムの部屋 (5) 光の部屋	13. モダニズムの部屋 (13) 偶像破壊の部屋	6. モダニズムの部屋 (6) コーナーにて	14. モダニズムの部屋 (14) ディスカッション	7. モダニズムの部屋 (7) 無重力の部屋	15. 総括	8. モダニズムの部屋 (8) プロウン・ルーム	
1. イントロダクション：美術の部屋 (1) なぜ「部屋」か？	9. モダニズムの部屋 (9) 画面/壁/部屋/都市																				
2. モダニズムの部屋 (1) アトリエの時間その1	10. モダニズムの部屋 (10) レディメイド発生空間																				
3. モダニズムの部屋 (2) アトリエの時間その2	11. モダニズムの部屋 (11) メルツ・パウ																				
4. モダニズムの部屋 (4) 描く部屋/描かれた部屋	12. モダニズムの部屋 (12) 造形生態系としての部屋																				
5. モダニズムの部屋 (5) 光の部屋	13. モダニズムの部屋 (13) 偶像破壊の部屋																				
6. モダニズムの部屋 (6) コーナーにて	14. モダニズムの部屋 (14) ディスカッション																				
7. モダニズムの部屋 (7) 無重力の部屋	15. 総括																				
8. モダニズムの部屋 (8) プロウン・ルーム																					

教科 No.	2313	授業科目	現代芸術論 3	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 現代美術の方法的基盤となった20世紀美術におけるさまざまな造形思考を、単なる知識や情報としてではなく、批判的に展開可能な生きた原理として捉え、表現者として必要な歴史感覚や実践的な方法意識を養う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【美術の部屋 その2】作品の制作と展示は、それが行われる空間とどのように関わるのか？モダニズム以後の美術作品の制作と展示のあり方を、仕切られた空間としての「部屋」との関係という観点から考察し、その背景と意味、作品概念の変化を探る。後期では、主に20世紀半ば以降、現代までを対象とする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：美術の部屋（2）表現としての「部屋」へ</td> <td>9. 馬の部屋</td> </tr> <tr> <td>2. 商品の部屋</td> <td>10. 鷲の部屋</td> </tr> <tr> <td>3. オモチャとゴミの部屋</td> <td>11. フェルトの部屋</td> </tr> <tr> <td>4. 空の部屋</td> <td>12. 現代美術における表現としての部屋（1）</td> </tr> <tr> <td>5. 色の部屋</td> <td>13. 現代美術における表現としての部屋（2）</td> </tr> <tr> <td>6. 箱の部屋（1）</td> <td>14. 現代美術における表現としての部屋（3）</td> </tr> <tr> <td>7. 箱の部屋（2）</td> <td>15. 総括とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 土の部屋</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度と複数の課題およびレポートの提出状況をもとに総合的に評価する。試験や最終レポートのみの評価は行わないので注意すること。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 単なる講義形式の授業ではない。しばしばリサーチや演習課題が出される。それらの提出状況と内容が評価対象となるので注意すること。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 授業計画は、進行状況に応じて変更される場合がある。</p>						1. イントロダクション：美術の部屋（2）表現としての「部屋」へ	9. 馬の部屋	2. 商品の部屋	10. 鷲の部屋	3. オモチャとゴミの部屋	11. フェルトの部屋	4. 空の部屋	12. 現代美術における表現としての部屋（1）	5. 色の部屋	13. 現代美術における表現としての部屋（2）	6. 箱の部屋（1）	14. 現代美術における表現としての部屋（3）	7. 箱の部屋（2）	15. 総括とディスカッション	8. 土の部屋	
1. イントロダクション：美術の部屋（2）表現としての「部屋」へ	9. 馬の部屋																				
2. 商品の部屋	10. 鷲の部屋																				
3. オモチャとゴミの部屋	11. フェルトの部屋																				
4. 空の部屋	12. 現代美術における表現としての部屋（1）																				
5. 色の部屋	13. 現代美術における表現としての部屋（2）																				
6. 箱の部屋（1）	14. 現代美術における表現としての部屋（3）																				
7. 箱の部屋（2）	15. 総括とディスカッション																				
8. 土の部屋																					

教科 No.	2314	授業科目	現代芸術論 4	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	建島哲			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 芸術と社会の関わりについて、今日的な視点による理解を深めることを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 美術を中心とした現代芸術が抱えるさまざまな課題を、具体的なトピックに即しつつ批判的に再検討する。ベンヤミンから今日に至る批評的な言説をも祖上に乗せることになろう。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 画廊とコレクター</td> </tr> <tr> <td>2. ピカソの&lt;ポスターのある光景&gt;を巡って</td> <td>10. ボードレールとモデルニテの概念</td> </tr> <tr> <td>3. グローバリズムとマルチカルチャリズム-1</td> <td>11. ベンヤミンと反歴史主義</td> </tr> <tr> <td>4. グローバリズムとマルチカルチャリズム-2</td> <td>12. グリンバーグとフォーマリズム批評</td> </tr> <tr> <td>5. アジアの現代美術とポストコロニアリズム</td> <td>13. 映像と美術、あるいはドゥルーズのシネマ論について</td> </tr> <tr> <td>6. 国際展について-今年のベネチア・ビエンナーレを中心に</td> <td>14. パフォーマンスと美術</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館論-反博物館学的な観点から</td> <td>15. モダニズム遠望</td> </tr> <tr> <td>8. 展覧会論-ホワイトキューブの神話</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポートの提出と出席状況によって評価する。</p>						1. オリエンテーション	9. 画廊とコレクター	2. ピカソの<ポスターのある光景>を巡って	10. ボードレールとモデルニテの概念	3. グローバリズムとマルチカルチャリズム-1	11. ベンヤミンと反歴史主義	4. グローバリズムとマルチカルチャリズム-2	12. グリンバーグとフォーマリズム批評	5. アジアの現代美術とポストコロニアリズム	13. 映像と美術、あるいはドゥルーズのシネマ論について	6. 国際展について-今年のベネチア・ビエンナーレを中心に	14. パフォーマンスと美術	7. 美術館論-反博物館学的な観点から	15. モダニズム遠望	8. 展覧会論-ホワイトキューブの神話	
1. オリエンテーション	9. 画廊とコレクター																				
2. ピカソの<ポスターのある光景>を巡って	10. ボードレールとモデルニテの概念																				
3. グローバリズムとマルチカルチャリズム-1	11. ベンヤミンと反歴史主義																				
4. グローバリズムとマルチカルチャリズム-2	12. グリンバーグとフォーマリズム批評																				
5. アジアの現代美術とポストコロニアリズム	13. 映像と美術、あるいはドゥルーズのシネマ論について																				
6. 国際展について-今年のベネチア・ビエンナーレを中心に	14. パフォーマンスと美術																				
7. 美術館論-反博物館学的な観点から	15. モダニズム遠望																				
8. 展覧会論-ホワイトキューブの神話																					

教科 No.	2315	授業科目	デザイン論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> デザインの基礎用語やジャンルを知り、作品に内在する基本的な考え方を理解する。デザインとそれを生み出した社会の関係も考察する。</p> <p><b>【授業概要】</b> ある時は「装飾」ある時は「機能」に傾きながら、今日まで様々なデザインが生み出されてきた。今回は「装飾」という視点から、欧州のデザインの作例を見てゆく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. シノワズリ</td> </tr> <tr> <td>2. 組紐文様</td> <td>10. 新古典主義</td> </tr> <tr> <td>3. 蔓草文様</td> <td>11. ゴシック・リヴァイヴァル</td> </tr> <tr> <td>4. グロテスク装飾</td> <td>12. ジャポニズム</td> </tr> <tr> <td>5. ムーア装飾</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. オーリキュレル</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. アカンサス</td> <td>15. 課題（又はレポート）の紹介</td> </tr> <tr> <td>8. アラベスク</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・課題（又はレポート）の内容・課題（又はレポート）の紹介を総合して評価します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 授業の後半に、学生が課題（又はレポート）を提出します。授業の最終日に、提出物を返却します。この時、提出物の内容を各自が簡単に紹介する時間を設けますので、時間通り出席のこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 教科書は使用しない。プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 必要に応じて、授業中に指示する。</p>						1. オリエンテーション	9. シノワズリ	2. 組紐文様	10. 新古典主義	3. 蔓草文様	11. ゴシック・リヴァイヴァル	4. グロテスク装飾	12. ジャポニズム	5. ムーア装飾	13. まとめ	6. オーリキュレル	14. まとめ	7. アカンサス	15. 課題（又はレポート）の紹介	8. アラベスク	
1. オリエンテーション	9. シノワズリ																				
2. 組紐文様	10. 新古典主義																				
3. 蔓草文様	11. ゴシック・リヴァイヴァル																				
4. グロテスク装飾	12. ジャポニズム																				
5. ムーア装飾	13. まとめ																				
6. オーリキュレル	14. まとめ																				
7. アカンサス	15. 課題（又はレポート）の紹介																				
8. アラベスク																					

教科 No.	2316	授業科目	日本美術史(絵画)1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田島達也			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本絵画史（主に中世～近世前期）に関する専門的な研究の実例を通して、これまでの研究成果や研究方法を学び、日本絵画に対する理解を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 「浮世絵と美人画」 浮世絵と言えば歌麿、北斎、広重など江戸の錦絵が著名だが、京都にも独特の浮世絵文化があった。特に京都における肉筆美人画の流れは、浮世絵という枠を越えて、近世初期から近代までつながる重要なジャンルであった。この授業では、美人画という画題についての考察と、美人画の主要作品、特に京都を中心として紹介していく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 美人画とは</td> <td>9. 美人画の歴史7 円山応挙と円山派</td> </tr> <tr> <td>2. 美人と美人画</td> <td>10. 美人画の歴史8 祇園井特</td> </tr> <tr> <td>3. 美人画の歴史1 古代—中世</td> <td>11. 美人画の歴史9 横山上籠</td> </tr> <tr> <td>4. 美人画の歴史2 近世初期風俗画</td> <td>12. 美人画の歴史10 岸派その他の美人画</td> </tr> <tr> <td>5. 美人画の歴史3 寛文美人図</td> <td>13. 美人画の歴史11 京都御所「列女伝」</td> </tr> <tr> <td>6. 美人画の歴史4 西川祐信</td> <td>14. 美人画の歴史12 美人画と広告</td> </tr> <tr> <td>7. 美人画の歴史5 鈴木春信</td> <td>15. 美人画の歴史13 近代美人画へ</td> </tr> <tr> <td>8. 美人画の歴史6 喜多川歌麿</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回授業の終わりに小レポート</p>						1. 美人画とは	9. 美人画の歴史7 円山応挙と円山派	2. 美人と美人画	10. 美人画の歴史8 祇園井特	3. 美人画の歴史1 古代—中世	11. 美人画の歴史9 横山上籠	4. 美人画の歴史2 近世初期風俗画	12. 美人画の歴史10 岸派その他の美人画	5. 美人画の歴史3 寛文美人図	13. 美人画の歴史11 京都御所「列女伝」	6. 美人画の歴史4 西川祐信	14. 美人画の歴史12 美人画と広告	7. 美人画の歴史5 鈴木春信	15. 美人画の歴史13 近代美人画へ	8. 美人画の歴史6 喜多川歌麿	
1. 美人画とは	9. 美人画の歴史7 円山応挙と円山派																				
2. 美人と美人画	10. 美人画の歴史8 祇園井特																				
3. 美人画の歴史1 古代—中世	11. 美人画の歴史9 横山上籠																				
4. 美人画の歴史2 近世初期風俗画	12. 美人画の歴史10 岸派その他の美人画																				
5. 美人画の歴史3 寛文美人図	13. 美人画の歴史11 京都御所「列女伝」																				
6. 美人画の歴史4 西川祐信	14. 美人画の歴史12 美人画と広告																				
7. 美人画の歴史5 鈴木春信	15. 美人画の歴史13 近代美人画へ																				
8. 美人画の歴史6 喜多川歌麿																					

教科 No.	2317	授業科目	日本美術史(絵画)2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田島達也			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本絵画史(主に近世後期以降)に関する専門的な研究の実例を通して、これまでの研究成果や研究方法を学び、日本絵画に対する理解を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 「京都画壇史 国画創作協会を中心に」大正から昭和の初めに、京都の若手日本画たちによって設立された美術団体「国画創作協会」。短い活動期間ながら、近代美術史上にきわめて強い光を放っている。この授業では、国画創作協会設立の背景、各会の作品紹介、会員や出品者の紹介、その後の動向をみてゆく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 村上華岳</td> </tr> <tr> <td>2. 明治期の画壇の動向</td> <td>10. 野長瀬晩花</td> </tr> <tr> <td>3. 京都府画学校から京都市立絵画専門学校まで</td> <td>11. 榭原紫峰・入江波光</td> </tr> <tr> <td>4. 国画創作協会創立への流れ</td> <td>12. 甲斐庄楠音</td> </tr> <tr> <td>5. 国画創作協会展1</td> <td>13. 岡本神草</td> </tr> <tr> <td>6. 国画創作協会展2</td> <td>14. その他の出品者</td> </tr> <tr> <td>7. 土田麦僊</td> <td>15. その後の動向</td> </tr> <tr> <td>8. 小野竹喬</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回授業の終わりに小レポート</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p>						1. はじめに	9. 村上華岳	2. 明治期の画壇の動向	10. 野長瀬晩花	3. 京都府画学校から京都市立絵画専門学校まで	11. 榭原紫峰・入江波光	4. 国画創作協会創立への流れ	12. 甲斐庄楠音	5. 国画創作協会展1	13. 岡本神草	6. 国画創作協会展2	14. その他の出品者	7. 土田麦僊	15. その後の動向	8. 小野竹喬	
1. はじめに	9. 村上華岳																				
2. 明治期の画壇の動向	10. 野長瀬晩花																				
3. 京都府画学校から京都市立絵画専門学校まで	11. 榭原紫峰・入江波光																				
4. 国画創作協会創立への流れ	12. 甲斐庄楠音																				
5. 国画創作協会展1	13. 岡本神草																				
6. 国画創作協会展2	14. その他の出品者																				
7. 土田麦僊	15. その後の動向																				
8. 小野竹喬																					

教科 No.	2318	授業科目	日本美術史(絵画)3	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	定金計次			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本古代絵画史に関する専門的な研究の実例を通して、これまでの研究状況を把握して、新たな研究方法を学ぶとともに、日本の古代絵画に対する理解と洞察を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 飛鳥時代・奈良時代の絵画研究:7乃至8世紀の我が国において、仏教絵画を中心として、絵画がどのように日本で受容され独自の様式を展開させて行ったかという問題について、主題の在り方や中国・朝鮮絵画との関係を重視しながら講述する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 仏教絵画および技法の伝播(1):インドから中国へ</td> <td>9. 奈良時代の絵画(1):絵因果経・法隆寺伝橋夫人厨子屏絵等</td> </tr> <tr> <td>2. 仏教絵画および技法の伝播(2):中国から日本へ</td> <td>10. 奈良時代の絵画(2):正倉院の絵画(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 飛鳥時代前期の絵画:法隆寺玉虫厨子等</td> <td>11. 奈良時代の絵画(3):正倉院の絵画(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 飛鳥時代後期の絵画(1):法隆寺金堂壁画(1)</td> <td>12. 奈良時代の絵画(4):正倉院の絵画(3)</td> </tr> <tr> <td>5. 飛鳥時代後期の絵画(2):法隆寺金堂壁画(2)</td> <td>13. 奈良時代の絵画(5):仏像彩色および彫刻に施された絵画表現</td> </tr> <tr> <td>6. 飛鳥時代後期の絵画(3):法隆寺金堂壁画(3)</td> <td>14. 奈良時代の絵画(6):薬師寺吉祥天像・ボストン美術館釈迦霊鷲山説法図</td> </tr> <tr> <td>7. 飛鳥時代後期の絵画(4):キトラ古墳壁画・高松塚古墳壁画</td> <td>15. 奈良時代の絵画(7):当麻寺観無量寿経変相図等</td> </tr> <tr> <td>8. 飛鳥時代後期の絵画(5):法隆寺伝橋夫人厨子絵</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 期末試験(あらかじめ公表した課題について論述して貰う)の結果、および出席回数を主にした平常点を総合して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 既存の書物に従って講述するような授業ではないから、欠席すると授業の流れを把握し難くなる虞が大きい。毎回出席することを常識と心得て欲しい。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に紹介する。</p> <p>※備考 専門的知識は、特に必要としない。</p> <p>専門的内容について、なるべく平易に説明すると共に、毎回多数のスライドを映写し理解が深まるように努める。</p>						1. 仏教絵画および技法の伝播(1):インドから中国へ	9. 奈良時代の絵画(1):絵因果経・法隆寺伝橋夫人厨子屏絵等	2. 仏教絵画および技法の伝播(2):中国から日本へ	10. 奈良時代の絵画(2):正倉院の絵画(1)	3. 飛鳥時代前期の絵画:法隆寺玉虫厨子等	11. 奈良時代の絵画(3):正倉院の絵画(2)	4. 飛鳥時代後期の絵画(1):法隆寺金堂壁画(1)	12. 奈良時代の絵画(4):正倉院の絵画(3)	5. 飛鳥時代後期の絵画(2):法隆寺金堂壁画(2)	13. 奈良時代の絵画(5):仏像彩色および彫刻に施された絵画表現	6. 飛鳥時代後期の絵画(3):法隆寺金堂壁画(3)	14. 奈良時代の絵画(6):薬師寺吉祥天像・ボストン美術館釈迦霊鷲山説法図	7. 飛鳥時代後期の絵画(4):キトラ古墳壁画・高松塚古墳壁画	15. 奈良時代の絵画(7):当麻寺観無量寿経変相図等	8. 飛鳥時代後期の絵画(5):法隆寺伝橋夫人厨子絵	
1. 仏教絵画および技法の伝播(1):インドから中国へ	9. 奈良時代の絵画(1):絵因果経・法隆寺伝橋夫人厨子屏絵等																				
2. 仏教絵画および技法の伝播(2):中国から日本へ	10. 奈良時代の絵画(2):正倉院の絵画(1)																				
3. 飛鳥時代前期の絵画:法隆寺玉虫厨子等	11. 奈良時代の絵画(3):正倉院の絵画(2)																				
4. 飛鳥時代後期の絵画(1):法隆寺金堂壁画(1)	12. 奈良時代の絵画(4):正倉院の絵画(3)																				
5. 飛鳥時代後期の絵画(2):法隆寺金堂壁画(2)	13. 奈良時代の絵画(5):仏像彩色および彫刻に施された絵画表現																				
6. 飛鳥時代後期の絵画(3):法隆寺金堂壁画(3)	14. 奈良時代の絵画(6):薬師寺吉祥天像・ボストン美術館釈迦霊鷲山説法図																				
7. 飛鳥時代後期の絵画(4):キトラ古墳壁画・高松塚古墳壁画	15. 奈良時代の絵画(7):当麻寺観無量寿経変相図等																				
8. 飛鳥時代後期の絵画(5):法隆寺伝橋夫人厨子絵																					

教科 No.	2319	授業科目	日本美術史(彫刻)1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本彫刻史に関する専門的な研究の実例を学ぶことによって、この分野の基礎的な研究成果を知るとともに、創作に活用し、研究方法を身につけることを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 「日本仏像史」日本では仏教文化の展開に伴い、多くの仏像が作られてきた。本授業では、重要かつ優れた作品が残されている飛鳥時代・7世紀から鎌倉時代・13世紀までを中心に、日本の仏教彫刻の様式展開を講義する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平安時代後期(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 仏像の基礎知識(1) 日本の仏像の種類(図像)</td> <td>10. 平安時代後期(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 仏像の基礎知識(2) 素材と技法</td> <td>11. 鎌倉時代前期(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 飛鳥時代</td> <td>12. 鎌倉時代前期(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 飛鳥時代後期(白鳳時代)</td> <td>13. 鎌倉時代後期</td> </tr> <tr> <td>6. 奈良時代前期</td> <td>14. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 奈良時代後期</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 平安時代前期</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末の試験の成績を重視し、出席状況も加味して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 予備知識は特に必要としない</p> <p><b>【教科書】</b> なし。必要資料は全て配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 水野敬三郎監修『日本仏像史』(美術出版社)</p>						1. イントロダクション	9. 平安時代後期(1)	2. 仏像の基礎知識(1) 日本の仏像の種類(図像)	10. 平安時代後期(2)	3. 仏像の基礎知識(2) 素材と技法	11. 鎌倉時代前期(1)	4. 飛鳥時代	12. 鎌倉時代前期(2)	5. 飛鳥時代後期(白鳳時代)	13. 鎌倉時代後期	6. 奈良時代前期	14. 総括	7. 奈良時代後期	15. 試験	8. 平安時代前期	
1. イントロダクション	9. 平安時代後期(1)																				
2. 仏像の基礎知識(1) 日本の仏像の種類(図像)	10. 平安時代後期(2)																				
3. 仏像の基礎知識(2) 素材と技法	11. 鎌倉時代前期(1)																				
4. 飛鳥時代	12. 鎌倉時代前期(2)																				
5. 飛鳥時代後期(白鳳時代)	13. 鎌倉時代後期																				
6. 奈良時代前期	14. 総括																				
7. 奈良時代後期	15. 試験																				
8. 平安時代前期																					

教科 No.	2320	授業科目	日本美術史(彫刻)2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本彫刻史に関する専門的な研究の実例を多角的に学ぶことによって、研究の展開方法を知るとともに、創作に活用し、研究方法を身につけることを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 「浄土教の彫刻」 日本仏教の大きな特徴のひとつに、浄土教の流行がある。その信仰に基づいた美術作品も数多く残されている。本授業では、7世紀以降13世紀までの浄土教の彫刻の多様な展開について詳論する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平安時代後期の作例(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本仏教彫刻史概説</td> <td>10. 平安時代後期の作例(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 飛鳥時代の作例</td> <td>11. 鎌倉時代の作例(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 奈良時代の作例(1)</td> <td>12. 鎌倉時代の作例(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 奈良時代の作例(2)</td> <td>13. 鎌倉時代の作例(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 平安時代前期の作例(1)</td> <td>14. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 平安時代前期の作例(2)</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 平安時代後期の作例(1)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末の試験の成績を重視し、出席状況も加味して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 予備知識は特に必要としない</p> <p><b>【教科書】</b> なし。必要資料は全て配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 特にないが、必要があれば授業中に紹介する。</p>						1. イントロダクション	9. 平安時代後期の作例(2)	2. 日本仏教彫刻史概説	10. 平安時代後期の作例(3)	3. 飛鳥時代の作例	11. 鎌倉時代の作例(1)	4. 奈良時代の作例(1)	12. 鎌倉時代の作例(2)	5. 奈良時代の作例(2)	13. 鎌倉時代の作例(3)	6. 平安時代前期の作例(1)	14. 総括	7. 平安時代前期の作例(2)	15. 試験	8. 平安時代後期の作例(1)	
1. イントロダクション	9. 平安時代後期の作例(2)																				
2. 日本仏教彫刻史概説	10. 平安時代後期の作例(3)																				
3. 飛鳥時代の作例	11. 鎌倉時代の作例(1)																				
4. 奈良時代の作例(1)	12. 鎌倉時代の作例(2)																				
5. 奈良時代の作例(2)	13. 鎌倉時代の作例(3)																				
6. 平安時代前期の作例(1)	14. 総括																				
7. 平安時代前期の作例(2)	15. 試験																				
8. 平安時代後期の作例(1)																					

教科 No.	2321	授業科目	東洋美術史 1		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上		
<h1>今年度休講</h1>						

教科 No.	2322	授業科目	東洋美術史 2		単位数	週1コマ 2単位		
担当教員	定金計次				開講学期	後期		
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上				
<p><b>【授業目標】</b>          インド美術を中心とした東洋美術史に関する専門的な研究の実例を通して、これまでの研究状況を把握して、新たな研究方法を学ぶとともに、東洋美術に対する理解と洞察を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b>          インド中世写本画の研究：インドにおいて10世紀頃から本格的に展開した、仏教とジャイナ教の写本画を取り上げ、それぞれの特徴と発展の仕方について講述する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           1. 古代から中世に至るインド絵画の展開            2. インドにおける写本および写本画について            3. 中世北部インドの仏教写本画            4. 中世東部インドの仏教写本画 (1)            5. 中世東部インドの仏教写本画 (2)            6. 中世東部インドの仏教写本画 (3)            7. 中世東部インドの仏教写本画 (4)            8. 中世南部インドのジャイナ教写本画         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           9. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (1)            10. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (2)            11. 中世西部インドのジャイナ教の写本画 (3)            12. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (4)            13. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (5)            14. 中世末における写本画の展開 (1)            15. 中世末における写本画の展開 (2)         </td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          期末試験（あらかじめ公表した課題について論述して貰う）の結果、および出席回数を主にした平常点を総合して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          既存の書物に従って講述するような授業ではないから、欠席すると授業の流れを把握し難くなる虞が大きい。毎回出席することを常識と心得て欲しい。</p> <p><b>【教科書】</b>          なし。</p> <p><b>【参考書等】</b>          授業中に紹介する。</p> <p>※備考 専門的知識は、特に必要としない。          専門的内容を出来るだけ平易に説明すると同時に、接することが少ないインド絵画作例のスライドを毎回なるべく多く映写し、理解を深めるように努める。</p>							1. 古代から中世に至るインド絵画の展開 2. インドにおける写本および写本画について 3. 中世北部インドの仏教写本画 4. 中世東部インドの仏教写本画 (1) 5. 中世東部インドの仏教写本画 (2) 6. 中世東部インドの仏教写本画 (3) 7. 中世東部インドの仏教写本画 (4) 8. 中世南部インドのジャイナ教写本画	9. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (1) 10. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (2) 11. 中世西部インドのジャイナ教の写本画 (3) 12. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (4) 13. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (5) 14. 中世末における写本画の展開 (1) 15. 中世末における写本画の展開 (2)
1. 古代から中世に至るインド絵画の展開 2. インドにおける写本および写本画について 3. 中世北部インドの仏教写本画 4. 中世東部インドの仏教写本画 (1) 5. 中世東部インドの仏教写本画 (2) 6. 中世東部インドの仏教写本画 (3) 7. 中世東部インドの仏教写本画 (4) 8. 中世南部インドのジャイナ教写本画	9. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (1) 10. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (2) 11. 中世西部インドのジャイナ教の写本画 (3) 12. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (4) 13. 中世西部インドのジャイナ教写本画 (5) 14. 中世末における写本画の展開 (1) 15. 中世末における写本画の展開 (2)							

教科 No.	2323	授業科目	西洋美術史 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	潮江宏三			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          西欧絵画の根強い伝統として主題絵画、物語絵画、詩的絵画という考え方がありますが、近代初頭のイギリスの芸術家ウィリアム・ブレイクの「彩飾本」を例に取り上げて、視覚芸術と言語芸術との関係について考察し、その作業を前提としてイラストレーションの意義について理解を深めていきます。</p> <p><b>【授業概要】</b>          ブレイクを例にして、西欧における視覚芸術と言語芸術との関係について考察します。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 「ウト・ピクトウーラ・ポイエシス」詩は絵画のごとくに、絵画は詩のごとくに」の美学</td> <td>9. 預言書：『ユアリズンの書』</td> </tr> <tr> <td>2. 「絵画と詩の結婚」：彩飾写本と彩飾本</td> <td>10. 預言書：『ユアリズンの書』その他</td> </tr> <tr> <td>3. 初期彩飾本：エンブレム・ブックスと格言</td> <td>11. 預言書：『ミルトン』1</td> </tr> <tr> <td>4. 『無垢と経験の歌』：「歌」形式の象徴性</td> <td>12. 預言書：『ミルトン』2</td> </tr> <tr> <td>5. 『天国と地獄の結婚』：散文詩と金言</td> <td>13. 預言書：『ジェルサレム』1</td> </tr> <tr> <td>6. 『セルの書』：ストーリー性</td> <td>14. 預言書：『ジェルサレム』2</td> </tr> <tr> <td>7. 預言書：『アルビオンの娘たちの幻想』と『アメリカ』</td> <td>15. まとめーラファエル前派や世紀末のイラストレーションについて</td> </tr> <tr> <td>8. 預言書：『アメリカ』と『ヨーロッパ』</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          学期末にレポートを課し、その評価に出席点を加味します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          文学作品を鑑賞することにもなるので、がんばって英語の勉強もしてください。</p> <p><b>【教科書】</b>          特に用いないが、参考資料は配布予定。</p> <p><b>【参考書等】</b>          参考書に関しては、授業中に指示する。</p>						1. 「ウト・ピクトウーラ・ポイエシス」詩は絵画のごとくに、絵画は詩のごとくに」の美学	9. 預言書：『ユアリズンの書』	2. 「絵画と詩の結婚」：彩飾写本と彩飾本	10. 預言書：『ユアリズンの書』その他	3. 初期彩飾本：エンブレム・ブックスと格言	11. 預言書：『ミルトン』1	4. 『無垢と経験の歌』：「歌」形式の象徴性	12. 預言書：『ミルトン』2	5. 『天国と地獄の結婚』：散文詩と金言	13. 預言書：『ジェルサレム』1	6. 『セルの書』：ストーリー性	14. 預言書：『ジェルサレム』2	7. 預言書：『アルビオンの娘たちの幻想』と『アメリカ』	15. まとめーラファエル前派や世紀末のイラストレーションについて	8. 預言書：『アメリカ』と『ヨーロッパ』	
1. 「ウト・ピクトウーラ・ポイエシス」詩は絵画のごとくに、絵画は詩のごとくに」の美学	9. 預言書：『ユアリズンの書』																				
2. 「絵画と詩の結婚」：彩飾写本と彩飾本	10. 預言書：『ユアリズンの書』その他																				
3. 初期彩飾本：エンブレム・ブックスと格言	11. 預言書：『ミルトン』1																				
4. 『無垢と経験の歌』：「歌」形式の象徴性	12. 預言書：『ミルトン』2																				
5. 『天国と地獄の結婚』：散文詩と金言	13. 預言書：『ジェルサレム』1																				
6. 『セルの書』：ストーリー性	14. 預言書：『ジェルサレム』2																				
7. 預言書：『アルビオンの娘たちの幻想』と『アメリカ』	15. まとめーラファエル前派や世紀末のイラストレーションについて																				
8. 預言書：『アメリカ』と『ヨーロッパ』																					

教科 No.	2324	授業科目	西洋美術史 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	潮江宏三			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          新古典主義からロマン派の時代を生きたイギリスの芸術家ウィリアム・ブレイクの絵画作品の展開をたどり、その制作と芸術思考のあり方を考察することで、近代初頭の芸術家の生き方について理解を深めます。</p> <p><b>【授業概要】</b>          年代順にブレイクの絵画作品の展開を辿り、その背後にあるものを考察します。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初期素描と水彩画—歴史画と聖書画</td> <td>9. ミルトン挿絵集2</td> </tr> <tr> <td>2. 大色彩版画</td> <td>10. 個展出品作品について</td> </tr> <tr> <td>3. ヤングの『夜想』挿絵集</td> <td>11. 後期単独作品について1</td> </tr> <tr> <td>4. ヤングの『夜想』挿絵集とグレイの挿絵集</td> <td>12. 後期単独作品について2</td> </tr> <tr> <td>5. テンペラによる聖書画と詩人の肖像</td> <td>13. ダンテ『神曲』挿絵集1</td> </tr> <tr> <td>6. 水彩による聖書画集1</td> <td>14. ダンテ『神曲』挿絵集2</td> </tr> <tr> <td>7. 水彩による聖書画集2</td> <td>15. ダンテ『神曲』挿絵集3</td> </tr> <tr> <td>8. ミルトン挿絵集1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          学期末にレポート提出を課し、出席点を加味して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          あまり受講する機会のないテーマなので、しっかりと受講してください。</p> <p><b>【教科書】</b>          特に用いないが、参考資料は授業中に配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b>          参考図書は、授業中に紹介する。</p>						1. 初期素描と水彩画—歴史画と聖書画	9. ミルトン挿絵集2	2. 大色彩版画	10. 個展出品作品について	3. ヤングの『夜想』挿絵集	11. 後期単独作品について1	4. ヤングの『夜想』挿絵集とグレイの挿絵集	12. 後期単独作品について2	5. テンペラによる聖書画と詩人の肖像	13. ダンテ『神曲』挿絵集1	6. 水彩による聖書画集1	14. ダンテ『神曲』挿絵集2	7. 水彩による聖書画集2	15. ダンテ『神曲』挿絵集3	8. ミルトン挿絵集1	
1. 初期素描と水彩画—歴史画と聖書画	9. ミルトン挿絵集2																				
2. 大色彩版画	10. 個展出品作品について																				
3. ヤングの『夜想』挿絵集	11. 後期単独作品について1																				
4. ヤングの『夜想』挿絵集とグレイの挿絵集	12. 後期単独作品について2																				
5. テンペラによる聖書画と詩人の肖像	13. ダンテ『神曲』挿絵集1																				
6. 水彩による聖書画集1	14. ダンテ『神曲』挿絵集2																				
7. 水彩による聖書画集2	15. ダンテ『神曲』挿絵集3																				
8. ミルトン挿絵集1																					

教科 No.	2325	授業科目	彫刻史 1	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○金井直			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋彫刻史の基本的な知識を身につけ、芸術としての彫刻に存在する本質的な問題についての理解を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 西洋彫刻史を概観する。前期は主に古代から19世紀初期の彫刻を取りあげ、彫刻の可能性と限界を分析する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 彫刻をめぐる言説</td> <td>9. バロック彫刻(2)：ベルニーニ</td> </tr> <tr> <td>2. 古代彫刻の様式展開</td> <td>10. 古代趣味と彫刻</td> </tr> <tr> <td>3. 古代・中世彫刻の機能</td> <td>11. 複製、模倣、修復</td> </tr> <tr> <td>4. ルネサンスの彫刻(1)：パラゴネについて</td> <td>12. 輪郭、身体</td> </tr> <tr> <td>5. ルネサンスの彫刻(2)：ミケランジェロ</td> <td>13. アントニオ・カノーヴァ</td> </tr> <tr> <td>6. ルネサンスの彫刻(3)：機能</td> <td>14. アカデミズムと彫刻</td> </tr> <tr> <td>7. マニエリスムの可能性：観者の位置</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. バロック彫刻(1)：瞬間性</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポート提出。題目、枚数については授業中に指示する。出席状況も評価に加味する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> ウィトコウアー『彫刻』中央公論美術出版 1994年。 諸川春樹編『彫刻の解剖学』ありな書房 2010年。</p>						1. 彫刻をめぐる言説	9. バロック彫刻(2)：ベルニーニ	2. 古代彫刻の様式展開	10. 古代趣味と彫刻	3. 古代・中世彫刻の機能	11. 複製、模倣、修復	4. ルネサンスの彫刻(1)：パラゴネについて	12. 輪郭、身体	5. ルネサンスの彫刻(2)：ミケランジェロ	13. アントニオ・カノーヴァ	6. ルネサンスの彫刻(3)：機能	14. アカデミズムと彫刻	7. マニエリスムの可能性：観者の位置	15. まとめ	8. バロック彫刻(1)：瞬間性	
1. 彫刻をめぐる言説	9. バロック彫刻(2)：ベルニーニ																				
2. 古代彫刻の様式展開	10. 古代趣味と彫刻																				
3. 古代・中世彫刻の機能	11. 複製、模倣、修復																				
4. ルネサンスの彫刻(1)：パラゴネについて	12. 輪郭、身体																				
5. ルネサンスの彫刻(2)：ミケランジェロ	13. アントニオ・カノーヴァ																				
6. ルネサンスの彫刻(3)：機能	14. アカデミズムと彫刻																				
7. マニエリスムの可能性：観者の位置	15. まとめ																				
8. バロック彫刻(1)：瞬間性																					

教科 No.	2326	授業科目	彫刻史 2	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○金井直			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋彫刻史の基本的な知識を身につけ、芸術としての彫刻に存在する本質的な問題についての理解を求める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 西洋彫刻史を概観する。ロダンをめぐる言説の再検討を出発点とし、19世紀後半から現代にいたる立体表現の展開を分析する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 彫刻をめぐる言説(彫刻史1の議論の確認)</td> <td>9. 20世紀前半の彫刻(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 19世紀彫刻の概観</td> <td>10. 20世紀前半の彫刻(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 近代彫刻の批評言語：ヴォリュームとマッサ</td> <td>11. 戦後アメリカの彫刻：彫刻の世界、批評の限界</td> </tr> <tr> <td>4. 近代彫刻の批評言語：トルソ、アサンブラージュ</td> <td>12. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：ポスト・ミニマル</td> </tr> <tr> <td>5. 近代彫刻の批評言語：作者、タッチ</td> <td>13. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：アルテ・ポーヴェラ</td> </tr> <tr> <td>6. 複製芸術としての彫刻</td> <td>14. インスタレーションの時代</td> </tr> <tr> <td>7. 近代日本の彫刻</td> <td>15. 彫刻の現在</td> </tr> <tr> <td>8. 20世紀前半の彫刻(1)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポート提出。題目、枚数については授業中に指示する。出席状況も評価に加味する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 事前に彫刻史1を履修しておくことが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> ウィトコウアー『彫刻』中央公論美術出版 1994年。 諸川春樹編『彫刻の解剖学』ありな書房 2010年。</p>						1. 彫刻をめぐる言説(彫刻史1の議論の確認)	9. 20世紀前半の彫刻(2)	2. 19世紀彫刻の概観	10. 20世紀前半の彫刻(3)	3. 近代彫刻の批評言語：ヴォリュームとマッサ	11. 戦後アメリカの彫刻：彫刻の世界、批評の限界	4. 近代彫刻の批評言語：トルソ、アサンブラージュ	12. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：ポスト・ミニマル	5. 近代彫刻の批評言語：作者、タッチ	13. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：アルテ・ポーヴェラ	6. 複製芸術としての彫刻	14. インスタレーションの時代	7. 近代日本の彫刻	15. 彫刻の現在	8. 20世紀前半の彫刻(1)	
1. 彫刻をめぐる言説(彫刻史1の議論の確認)	9. 20世紀前半の彫刻(2)																				
2. 19世紀彫刻の概観	10. 20世紀前半の彫刻(3)																				
3. 近代彫刻の批評言語：ヴォリュームとマッサ	11. 戦後アメリカの彫刻：彫刻の世界、批評の限界																				
4. 近代彫刻の批評言語：トルソ、アサンブラージュ	12. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：ポスト・ミニマル																				
5. 近代彫刻の批評言語：作者、タッチ	13. 60-70年代：ジャンルの解体、展開：アルテ・ポーヴェラ																				
6. 複製芸術としての彫刻	14. インスタレーションの時代																				
7. 近代日本の彫刻	15. 彫刻の現在																				
8. 20世紀前半の彫刻(1)																					

教科 No.	2327	授業科目	美術史特講 1		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○春木有亮				開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上		
<p>※詳細については、掲示にて周知します。</p>						

教科 No.	2328	授業科目	美術史特講 2		単位数	集中30時間 2単位																								
担当教員	○岡田温司				開講学期	後期																								
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																										
<p><b>【授業目標】</b> 西洋美術史における多様な事例についての知識を得るとともに、美術史・芸術学の新しい理論を学び、新たな着想へと繋げる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 芸術と精神分析。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコーまで</td> <td style="width: 33%;">9.</td> <td style="width: 33%;">フロイトのレオナルド論 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって</td> <td>10.</td> <td>II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. I-3. 夢を描くーグランヴィル</td> <td>11.</td> <td>フロイトのミケランジェロ論 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. I-4. 「狂人」の肖像</td> <td>12.</td> <td>III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について</td> </tr> <tr> <td>5. I-5. 医者と患者の芸術</td> <td>13.</td> <td>III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)</td> </tr> <tr> <td>6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術</td> <td>14.</td> <td>III-3. 対象関係理論</td> </tr> <tr> <td>7. II-2. フロイトとイタリア</td> <td>15.</td> <td>III-4. 観る主体と無意識</td> </tr> <tr> <td>8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席とレポート。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b> 岡田温司 『フロイトのイタリアー旅・芸術・精神分析』平凡社</p> <p><b>【参考書等】</b> 岡田温司 『ミメシスを超えて』勁草書房, ミシェル・テヴォ 『不実なる鏡』人文書院</p>							1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコーまで	9.	フロイトのレオナルド論 (2)	2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって	10.	II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)	3. I-3. 夢を描くーグランヴィル	11.	フロイトのミケランジェロ論 (2)	4. I-4. 「狂人」の肖像	12.	III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について	5. I-5. 医者と患者の芸術	13.	III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)	6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術	14.	III-3. 対象関係理論	7. II-2. フロイトとイタリア	15.	III-4. 観る主体と無意識	8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)		
1. I. フロイト以前/I-1. 「狂気の表象」ギリシアからシャルコーまで	9.	フロイトのレオナルド論 (2)																												
2. I-2. 「芸術と狂気」というトポスをめぐって	10.	II-4. フロイトのミケランジェロ論 (1)																												
3. I-3. 夢を描くーグランヴィル	11.	フロイトのミケランジェロ論 (2)																												
4. I-4. 「狂人」の肖像	12.	III. フロイト以後/III-1. 応用精神分析について																												
5. I-5. 医者と患者の芸術	13.	III-2. セルフを表象するー自画像をめぐって (1), (2)																												
6. II. フロイトのテキスト/II-1. フロイトにおける美, 芸術	14.	III-3. 対象関係理論																												
7. II-2. フロイトとイタリア	15.	III-4. 観る主体と無意識																												
8. II-3. フロイトのレオナルド論 (1)																														

教科 No.	2329	授業科目	デザイン史特論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	渡辺眞			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 戦後日本のデザイン動向の変遷をデザイン思想や社会の変化とともに理解することをめざす。</p> <p><b>【授業概要】</b> 戦後日本においてデザインにかかわって注目すべき動向、思想、トピックスを取り上げていく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 主旨説明</td> <td>9. モダンとポストモダン</td> </tr> <tr> <td>2. 1940年代以前の日本のデザイン状況</td> <td>10. ポストモダン以後のデザイン観</td> </tr> <tr> <td>3. 1950年代のデザイン盗用問題と啓蒙運動</td> <td>11. デザインの現代的様相 1ーグラフィックデザイン</td> </tr> <tr> <td>4. グッドデザイン思想と運動</td> <td>12. デザインの現代的様相 2ープロダクトデザイン</td> </tr> <tr> <td>5. Gマーク選定制度</td> <td>13. デザインの現代的様相 3ーファッションあるいはウェブデザイン</td> </tr> <tr> <td>6. 日宣美1</td> <td>14. デザインの価値と文化</td> </tr> <tr> <td>7. 日宣美2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 社会背景の変化ー大衆から分衆へー</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・小論文・レポート試験等を総合的に評価する。</p>						1. 主旨説明	9. モダンとポストモダン	2. 1940年代以前の日本のデザイン状況	10. ポストモダン以後のデザイン観	3. 1950年代のデザイン盗用問題と啓蒙運動	11. デザインの現代的様相 1ーグラフィックデザイン	4. グッドデザイン思想と運動	12. デザインの現代的様相 2ープロダクトデザイン	5. Gマーク選定制度	13. デザインの現代的様相 3ーファッションあるいはウェブデザイン	6. 日宣美1	14. デザインの価値と文化	7. 日宣美2	15. まとめ	8. 社会背景の変化ー大衆から分衆へー	
1. 主旨説明	9. モダンとポストモダン																				
2. 1940年代以前の日本のデザイン状況	10. ポストモダン以後のデザイン観																				
3. 1950年代のデザイン盗用問題と啓蒙運動	11. デザインの現代的様相 1ーグラフィックデザイン																				
4. グッドデザイン思想と運動	12. デザインの現代的様相 2ープロダクトデザイン																				
5. Gマーク選定制度	13. デザインの現代的様相 3ーファッションあるいはウェブデザイン																				
6. 日宣美1	14. デザインの価値と文化																				
7. 日宣美2	15. まとめ																				
8. 社会背景の変化ー大衆から分衆へー																					

教科 No.	2330	授業科目	色彩学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	渡辺眞			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 独自の色彩観や表現法を構築するための基礎的知識の修得を目指す。</p> <p><b>【授業概要】</b> 色覚を成立させる光・物質・目の構造について基本を解説した上で、表色システム・配色理論・心理的効果・カラーマーケティング等について概説する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 主旨説明</td> <td>9. 色彩調和</td> </tr> <tr> <td>2. 光と色</td> <td>10. 色の心理的効果1</td> </tr> <tr> <td>3. 物質と色1</td> <td>11. 色の心理的効果2</td> </tr> <tr> <td>4. 物質と色2</td> <td>12. カラーマーケティング1</td> </tr> <tr> <td>5. 目の構造</td> <td>13. カラーマーケティング2</td> </tr> <tr> <td>6. 色覚と異常</td> <td>14. 色の歴史</td> </tr> <tr> <td>7. 表色システムーマンセル系その他</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 表色システムーXYZ系その他</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席・小論文・レポート試験等を総合的に評価する。</p>						1. 主旨説明	9. 色彩調和	2. 光と色	10. 色の心理的効果1	3. 物質と色1	11. 色の心理的効果2	4. 物質と色2	12. カラーマーケティング1	5. 目の構造	13. カラーマーケティング2	6. 色覚と異常	14. 色の歴史	7. 表色システムーマンセル系その他	15. まとめ	8. 表色システムーXYZ系その他	
1. 主旨説明	9. 色彩調和																				
2. 光と色	10. 色の心理的効果1																				
3. 物質と色1	11. 色の心理的効果2																				
4. 物質と色2	12. カラーマーケティング1																				
5. 目の構造	13. カラーマーケティング2																				
6. 色覚と異常	14. 色の歴史																				
7. 表色システムーマンセル系その他	15. まとめ																				
8. 表色システムーXYZ系その他																					

教科 No.	2331	授業科目	陶磁器工芸史 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	伊東徹夫			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 新石器時代から清までの中国陶磁史の基本的な知識を得る。18世紀まで日本などの世界の主要な陶磁生産地に大きな影響を与え続けた中国陶磁の特質を理解する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 各王朝の陶磁の説明に終始するのではなく、大づかみに中国陶磁史を理解できるような授業にしたい。今年度は、中国を代表する白磁窯である定窯の白磁や黒磁などを重点的に論じる。陶片など実物資料も触ってもらう予定である。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義</td> <td>9. 近世4(定窯3)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国の地理と気候</td> <td>10. 近世5(定窯4)</td> </tr> <tr> <td>3. 中国の年表</td> <td>11. 近世6(南宋・金)</td> </tr> <tr> <td>4. 原始, 古代</td> <td>12. 近世7(元)</td> </tr> <tr> <td>5. 中世</td> <td>13. 近世8(明)</td> </tr> <tr> <td>6. 近世1(北宋)</td> <td>14. 近世9(清)</td> </tr> <tr> <td>7. 近世2(定窯1)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 近世3(定窯2)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席と期末レポート(試験に代える場合もある)を総合して評価する。遅刻, 早退は減点の対象とする。第1回の導入講義で詳細を説明する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 1回目の講義で説明する</p>						1. 導入講義	9. 近世4(定窯3)	2. 中国の地理と気候	10. 近世5(定窯4)	3. 中国の年表	11. 近世6(南宋・金)	4. 原始, 古代	12. 近世7(元)	5. 中世	13. 近世8(明)	6. 近世1(北宋)	14. 近世9(清)	7. 近世2(定窯1)	15. 総括	8. 近世3(定窯2)	
1. 導入講義	9. 近世4(定窯3)																				
2. 中国の地理と気候	10. 近世5(定窯4)																				
3. 中国の年表	11. 近世6(南宋・金)																				
4. 原始, 古代	12. 近世7(元)																				
5. 中世	13. 近世8(明)																				
6. 近世1(北宋)	14. 近世9(清)																				
7. 近世2(定窯1)	15. 総括																				
8. 近世3(定窯2)																					

教科 No.	2332	授業科目	陶磁器工芸史 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	伊東徹夫			開講学期	後期																
履修条件	受講者は、陶磁器工芸史1を受講しておくことが望ましい。		履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 中国以外の主要な陶磁生産地の陶磁と、日本の近現代の陶芸の基本的な知識を得る。それぞれの地域の陶磁の特質を理解する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 陶磁器工芸史1(前期)で講義した中国陶磁史をスケールに用い、中国以外の諸地域の陶磁史を講義する。今年度は、日本の近現代の陶芸に重点を置く。各地域ごとの講義回数は少ないが、それぞれの地域の陶磁のエッセンスをつかんでもらうことを目的とする。受講者は、陶磁器工芸史1を先に受講しておくことが望ましい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義</td> <td>9. 世界2(ヨーロッパ)</td> </tr> <tr> <td>2. 朝鮮半島</td> <td>10. 世界の近現代陶芸</td> </tr> <tr> <td>3. 日本1(古代・中世)</td> <td>11. 日本の近代陶芸1</td> </tr> <tr> <td>4. 日本2(美濃)</td> <td>12. 日本の近代陶芸2</td> </tr> <tr> <td>5. 日本3(唐津・九州各地の窯)</td> <td>13. 日本の現代陶芸1</td> </tr> <tr> <td>6. 日本4(有田)</td> <td>14. 日本の現代陶芸2</td> </tr> <tr> <td>7. 日本5(京都)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 世界1(オリエント・イスラム)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席と期末レポート(試験に代える場合もある)を総合して評価する。遅刻, 早退は減点の対象とする。第1回の導入講義で詳細を説明する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 1回目の授業で説明する。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 陶磁器工芸史1を受講していない受講者は、十分な授業内容の理解が困難であろう。中国陶磁史を自分でしっかりと学んだ上で受講しなければならない。</p>						1. 導入講義	9. 世界2(ヨーロッパ)	2. 朝鮮半島	10. 世界の近現代陶芸	3. 日本1(古代・中世)	11. 日本の近代陶芸1	4. 日本2(美濃)	12. 日本の近代陶芸2	5. 日本3(唐津・九州各地の窯)	13. 日本の現代陶芸1	6. 日本4(有田)	14. 日本の現代陶芸2	7. 日本5(京都)	15. 総括	8. 世界1(オリエント・イスラム)	
1. 導入講義	9. 世界2(ヨーロッパ)																				
2. 朝鮮半島	10. 世界の近現代陶芸																				
3. 日本1(古代・中世)	11. 日本の近代陶芸1																				
4. 日本2(美濃)	12. 日本の近代陶芸2																				
5. 日本3(唐津・九州各地の窯)	13. 日本の現代陶芸1																				
6. 日本4(有田)	14. 日本の現代陶芸2																				
7. 日本5(京都)	15. 総括																				
8. 世界1(オリエント・イスラム)																					

教科 No.	2333	授業科目	染織工芸史 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          様々な文化圏で作られた染織品に関して、材質・技法・意匠などの基礎知識を身につける。          染織に対する視野を広げ、そのおもしろさを知る。</p> <p><b>【授業概要】</b>          染織工芸史 1 では、主に海外の染織品の意匠や技法を見てゆき、染織と風土・習俗・社会との関係を考察する。          染織品を収蔵する海外の美術館を、体験談を交えて紹介する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">9. 中国の龍袍</td> </tr> <tr> <td>2. インドのサラサ</td> <td>10. ファイバー・ワークとコンテンポラリー・アート</td> </tr> <tr> <td>3. コプトの織物</td> <td>11. 祇園祭の染織品-1</td> </tr> <tr> <td>4. クロイスターのタペストリー</td> <td>12. 祇園祭の染織品-2</td> </tr> <tr> <td>5. アンデスのフリー・テクニク</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. ルネサンスのボミグラネート</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. サファヴィッドのリペート・パターン</td> <td>15. 授業内課題</td> </tr> <tr> <td>8. モードのジャポニズム</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          出席と授業内の課題を総合して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          最終授業において課題を行うので、時間通りに出席のこと。</p> <p><b>【教科書】</b>          教科書は使用しない。プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b>          必要に応じて、授業中に指示する。</p> <p>※備考 染織の知識がない方も楽しく学べるように、工夫しながらやっています。          染織に興味のある方は、専攻にかかわらず歓迎します。</p>						1. オリエンテーション	9. 中国の龍袍	2. インドのサラサ	10. ファイバー・ワークとコンテンポラリー・アート	3. コプトの織物	11. 祇園祭の染織品-1	4. クロイスターのタペストリー	12. 祇園祭の染織品-2	5. アンデスのフリー・テクニク	13. まとめ	6. ルネサンスのボミグラネート	14. まとめ	7. サファヴィッドのリペート・パターン	15. 授業内課題	8. モードのジャポニズム	
1. オリエンテーション	9. 中国の龍袍																				
2. インドのサラサ	10. ファイバー・ワークとコンテンポラリー・アート																				
3. コプトの織物	11. 祇園祭の染織品-1																				
4. クロイスターのタペストリー	12. 祇園祭の染織品-2																				
5. アンデスのフリー・テクニク	13. まとめ																				
6. ルネサンスのボミグラネート	14. まとめ																				
7. サファヴィッドのリペート・パターン	15. 授業内課題																				
8. モードのジャポニズム																					

教科 No.	2334	授業科目	染織工芸史 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	吉田雅子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          染織品に関して、材質・技法・意匠などの基礎知識を身につける。様々な文化圏で作られた染織品を理解し、染織に対する視野を広げ、それが担ってきた文化的役割について考えを巡らせる。</p> <p><b>【授業概要】</b>          染織工芸史 2 では、日本の染織品の意匠や技法を中心に見てゆく。国内の問題に留まらず、ポルトガルやオランダなどを經由して日本に流入した海外染織品の伝播の問題にも目を向ける。引き続き、各国の染織美術館も紹介してゆく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">9. テクチャーに関して</td> </tr> <tr> <td>2. 雲気のエネルギー</td> <td>10. 歌舞伎の衣装</td> </tr> <tr> <td>3. 上代裂と東西交流</td> <td>11. 南蛮の島と江戸の絹</td> </tr> <tr> <td>4. 平安と自然</td> <td>12. 紅毛のデザインは巡る</td> </tr> <tr> <td>5. 文様に関して</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 舞楽の装束</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 能装束と舞</td> <td>15. レポートの紹介</td> </tr> <tr> <td>8. 家紋</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          出席・レポート内容・レポート紹介を総合して評価します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          授業の後半に、学生がレポートを提出します。授業の最終日に、提出物を返却します。この時、提出物の内容を各自が簡単に紹介する時間を設けますので、時間通り出席のこと。</p> <p><b>【教科書】</b>          教科書は使用しない。プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b>          必要に応じて、授業中に指示する。</p> <p>※備考 レポートの紹介に特別な準備は不要です。必ず時間通りに出席してください。          染織の知識がない方も楽しく学べるように、工夫しながらやっています。染織に興味のある方は、専攻にかかわらず歓迎します。</p>						1. オリエンテーション	9. テクチャーに関して	2. 雲気のエネルギー	10. 歌舞伎の衣装	3. 上代裂と東西交流	11. 南蛮の島と江戸の絹	4. 平安と自然	12. 紅毛のデザインは巡る	5. 文様に関して	13. まとめ	6. 舞楽の装束	14. まとめ	7. 能装束と舞	15. レポートの紹介	8. 家紋	
1. オリエンテーション	9. テクチャーに関して																				
2. 雲気のエネルギー	10. 歌舞伎の衣装																				
3. 上代裂と東西交流	11. 南蛮の島と江戸の絹																				
4. 平安と自然	12. 紅毛のデザインは巡る																				
5. 文様に関して	13. まとめ																				
6. 舞楽の装束	14. まとめ																				
7. 能装束と舞	15. レポートの紹介																				
8. 家紋																					

教科 No.	2335	授業科目	漆工史 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○田川真千子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】																					
日本の漆工史を概観し、各時代の漆工の特徴を理解する。また、日本の漆工の多様な技法の基本的知識を身につける。																					
【授業概要】																					
日本の漆工史を通史的に外観しながら、各時代の代表的な作例を取りあげて、その特徴を解説する。漆工品の素地、下地、塗り、加飾について、基本的知識の学習を行う。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 日本の漆工</td> <td>9. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 漆液の特質 漆工の始まり</td> <td>10. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 飛鳥時代から奈良時代の漆工</td> <td>11. 様々な漆工の加飾技法</td> </tr> <tr> <td>4. 奈良時代の漆工</td> <td>12. 桃山時代から江戸時代の漆工</td> </tr> <tr> <td>5. 漆工の制作工程</td> <td>13. 江戸時代の漆工</td> </tr> <tr> <td>6. 漆工の用具と材料</td> <td>14. 明治時代以降の漆工と今後の課題</td> </tr> <tr> <td>7. 平安時代の漆工 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 平安時代の漆工 (2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 導入 日本の漆工	9. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (1)	2. 漆液の特質 漆工の始まり	10. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (2)	3. 飛鳥時代から奈良時代の漆工	11. 様々な漆工の加飾技法	4. 奈良時代の漆工	12. 桃山時代から江戸時代の漆工	5. 漆工の制作工程	13. 江戸時代の漆工	6. 漆工の用具と材料	14. 明治時代以降の漆工と今後の課題	7. 平安時代の漆工 (1)	15. まとめ	8. 平安時代の漆工 (2)	
1. 導入 日本の漆工	9. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (1)																				
2. 漆液の特質 漆工の始まり	10. 鎌倉時代から室町時代の漆工 (2)																				
3. 飛鳥時代から奈良時代の漆工	11. 様々な漆工の加飾技法																				
4. 奈良時代の漆工	12. 桃山時代から江戸時代の漆工																				
5. 漆工の制作工程	13. 江戸時代の漆工																				
6. 漆工の用具と材料	14. 明治時代以降の漆工と今後の課題																				
7. 平安時代の漆工 (1)	15. まとめ																				
8. 平安時代の漆工 (2)																					
【評価方法】																					
出席率 (50%) とレポート提出や期末に行う記述試験 (50%) に基づいて評価する。																					
【履修上の注意】																					
各地の博物館等に展示されている漆工品をできるだけ数多く見るよう心がけること。																					
【教科書】																					
特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。																					

教科 No.	2336	授業科目	漆工史 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○田川真千子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】																					
日本の漆工に影響を与えた中国をはじめ東アジアの漆工の特徴を理解する。また漆工史に関わる諸問題について考察する。																					
【授業概要】																					
日本の漆工は、広く東アジアの影響を受け発展を続けてきた。本講義では、日本のみならず東アジアに視野を広げ、東洋の漆工品の変遷とその制作技法について理解を深める。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 漆工品 素地および構造の多様性について</td> <td>9. 中国の漆工 明・清時代</td> </tr> <tr> <td>2. 漆工の用具と材料について</td> <td>10. 中国明時代の漆工技術書『髹飾録』について</td> </tr> <tr> <td>3. 古代の漆工</td> <td>11. 日本の漆工技法 蒔絵 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (1)</td> <td>12. 日本の漆工技法 蒔絵 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (2)</td> <td>13. 日本の地域と漆工について</td> </tr> <tr> <td>6. 東洋の漆工技法 螺鈿</td> <td>14. 漆工品の保存と修復に関わる諸問題</td> </tr> <tr> <td>7. 東洋の漆工技法 平脱・平文</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋の漆工技法 色漆・蒨髹 (きんま)・沈金・存星・箔絵など</td> <td></td> </tr> </table>						1. 漆工品 素地および構造の多様性について	9. 中国の漆工 明・清時代	2. 漆工の用具と材料について	10. 中国明時代の漆工技術書『髹飾録』について	3. 古代の漆工	11. 日本の漆工技法 蒔絵 (1)	4. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (1)	12. 日本の漆工技法 蒔絵 (2)	5. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (2)	13. 日本の地域と漆工について	6. 東洋の漆工技法 螺鈿	14. 漆工品の保存と修復に関わる諸問題	7. 東洋の漆工技法 平脱・平文	15. まとめ	8. 東洋の漆工技法 色漆・蒨髹 (きんま)・沈金・存星・箔絵など	
1. 漆工品 素地および構造の多様性について	9. 中国の漆工 明・清時代																				
2. 漆工の用具と材料について	10. 中国明時代の漆工技術書『髹飾録』について																				
3. 古代の漆工	11. 日本の漆工技法 蒔絵 (1)																				
4. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (1)	12. 日本の漆工技法 蒔絵 (2)																				
5. 中国の漆工 唐・宋・元時代 (2)	13. 日本の地域と漆工について																				
6. 東洋の漆工技法 螺鈿	14. 漆工品の保存と修復に関わる諸問題																				
7. 東洋の漆工技法 平脱・平文	15. まとめ																				
8. 東洋の漆工技法 色漆・蒨髹 (きんま)・沈金・存星・箔絵など																					
【評価方法】																					
出席率 (50%) とレポート提出や期末に行う記述試験 (50%) に基づいて評価する。																					
【履修上の注意】																					
漆工技術の用語を使って授業を進めるため、先に漆工史 1 を履修していることが望ましい。各地の博物館等に展示されている漆工品をできるだけ数多く見るよう心がけること。																					
【教科書】																					
特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。																					

教科 No.	2337	授業科目	建築史 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○西田雅嗣			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          ヨーロッパ文化における建築とは何なのかを、代表的な歴史建築を見て行く事で学び、建物と人間の付き合い方のヨーロッパ的なあり方を知る。建築や環境を巡る現在の様々な問題に対して主体的な眼差しを持てるようになるための基礎的な知識の習得の一つである。また、建築の鑑賞ということも知ってもらいたい。</p> <p><b>【授業概要】</b>          ヨーロッパの代表的な歴史建築を主人公として、時代様式を道案内に、ヨーロッパ建築の古代から近世までの歴史を講述する。それぞれの時代に、何がどのように建築として作られて来たのかを概観し、ヨーロッパの代表的歴史建築物の事例とその特徴・意味を知り、ヨーロッパの建築の歴史的な変遷プロセスのメカニズムを学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 序論：〈建築〉、〈様式〉、〈建築史〉</td> <td>9. サン・ピエトロ大聖堂とヴィラ・ロトンダ：再生した古代と人文主義的建築的現れ (III-08 ルネサンス建築)</td> </tr> <tr> <td>2. パルテノン：建築における〈美〉の実現の方法 (I-01 古代ギリシア建築)</td> <td>10. サン・カルリノ：政治的プロパガンダとしての建築的修辭 (III-09 バロック建築)</td> </tr> <tr> <td>3. コロッセウムとパンテオン：〈建築〉の完成、〈強〉・〈用〉・〈美〉の三つの理 (I-02 古代ローマ建築)</td> <td>11. ルーヴル宮とヴェルサイユ城：フランス古典主義、もう一つのバロック (III-10 古典主義建築)</td> </tr> <tr> <td>4. サンタ・サビーナとサンタ・コスタンツァ：宗教建築における二つの形式的原形 (II-03 初期キリスト教建築)</td> <td>12. パリのパンテオン：考古学的正確さの古代意匠の背後にある近代合理思想 (III-11 新古典主義建築)</td> </tr> <tr> <td>5. アギア・ソフィア大聖堂：ドーム建築の可能性 (II-04 ビザンティン建築)</td> <td>13. イギリス国会議事堂：様式の崩壊としての歴史主義・折衷主義 (III-12 歴史主義と折衷主義の建築)</td> </tr> <tr> <td>6. ザンクト・ガレン修道院計画図：初期中世における長堂式教会建築の新たな展開 (II-05 プレ・ロマネスク建築)</td> <td>14. 建築史における〈建築家〉の問題 (1)：ウィットルーウィウスとアルベルティ</td> </tr> <tr> <td>7. クリュニー修道院とル・トロネ修道院：聖なる空間の建築化 (II-06 ロマネスク建築)</td> <td>15. 建築史における〈建築家〉の問題 (2)：ヴァイール・ド・オヌクールとヴィオレ＝ル＝デュク</td> </tr> <tr> <td>8. アミアン大聖堂とサント＝シャペル：〈まことの光〉の建築構造 (II-07 ゴシック建築)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          自ら調べ、自ら考えて書くような、何らかの主体的な作業を必要とするレポート課題を果たし、その評点を評価とする。授業への出席回数が極端に少ない学生にはレポート提出を認めない場合もあるので注意する事。レポート課題は適当な時期の講義中に出席する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          毎回大量の建築の画像をパワーポイントで映しながら講義を行う。毎回の講義は、基本的に教科書の各章に対応しているため、講義の前には毎回必ず、当日の講義に対応する教科書該当箇所を読んで来るようにすること。</p> <p><b>【教科書】</b>          西田雅嗣編 『ヨーロッパ建築史』 昭和堂 2,520円 (税込み)</p> <p><b>【参考書等】</b>          ・日本建築学会編『西洋建築史図集』彰国社 2,625円 (税込み)、西田雅嗣・谷ヶ崎善太郎編『図説 建築の歴史—西洋・日本・近代』学芸出版 2,940円 (税込み)、佐藤達生著『図説 西洋建築の歴史』ふくろうの本 河出書房新社 1,890円 (税込み)</p>						1. 序論：〈建築〉、〈様式〉、〈建築史〉	9. サン・ピエトロ大聖堂とヴィラ・ロトンダ：再生した古代と人文主義的建築的現れ (III-08 ルネサンス建築)	2. パルテノン：建築における〈美〉の実現の方法 (I-01 古代ギリシア建築)	10. サン・カルリノ：政治的プロパガンダとしての建築的修辭 (III-09 バロック建築)	3. コロッセウムとパンテオン：〈建築〉の完成、〈強〉・〈用〉・〈美〉の三つの理 (I-02 古代ローマ建築)	11. ルーヴル宮とヴェルサイユ城：フランス古典主義、もう一つのバロック (III-10 古典主義建築)	4. サンタ・サビーナとサンタ・コスタンツァ：宗教建築における二つの形式的原形 (II-03 初期キリスト教建築)	12. パリのパンテオン：考古学的正確さの古代意匠の背後にある近代合理思想 (III-11 新古典主義建築)	5. アギア・ソフィア大聖堂：ドーム建築の可能性 (II-04 ビザンティン建築)	13. イギリス国会議事堂：様式の崩壊としての歴史主義・折衷主義 (III-12 歴史主義と折衷主義の建築)	6. ザンクト・ガレン修道院計画図：初期中世における長堂式教会建築の新たな展開 (II-05 プレ・ロマネスク建築)	14. 建築史における〈建築家〉の問題 (1)：ウィットルーウィウスとアルベルティ	7. クリュニー修道院とル・トロネ修道院：聖なる空間の建築化 (II-06 ロマネスク建築)	15. 建築史における〈建築家〉の問題 (2)：ヴァイール・ド・オヌクールとヴィオレ＝ル＝デュク	8. アミアン大聖堂とサント＝シャペル：〈まことの光〉の建築構造 (II-07 ゴシック建築)	
1. 序論：〈建築〉、〈様式〉、〈建築史〉	9. サン・ピエトロ大聖堂とヴィラ・ロトンダ：再生した古代と人文主義的建築的現れ (III-08 ルネサンス建築)																				
2. パルテノン：建築における〈美〉の実現の方法 (I-01 古代ギリシア建築)	10. サン・カルリノ：政治的プロパガンダとしての建築的修辭 (III-09 バロック建築)																				
3. コロッセウムとパンテオン：〈建築〉の完成、〈強〉・〈用〉・〈美〉の三つの理 (I-02 古代ローマ建築)	11. ルーヴル宮とヴェルサイユ城：フランス古典主義、もう一つのバロック (III-10 古典主義建築)																				
4. サンタ・サビーナとサンタ・コスタンツァ：宗教建築における二つの形式的原形 (II-03 初期キリスト教建築)	12. パリのパンテオン：考古学的正確さの古代意匠の背後にある近代合理思想 (III-11 新古典主義建築)																				
5. アギア・ソフィア大聖堂：ドーム建築の可能性 (II-04 ビザンティン建築)	13. イギリス国会議事堂：様式の崩壊としての歴史主義・折衷主義 (III-12 歴史主義と折衷主義の建築)																				
6. ザンクト・ガレン修道院計画図：初期中世における長堂式教会建築の新たな展開 (II-05 プレ・ロマネスク建築)	14. 建築史における〈建築家〉の問題 (1)：ウィットルーウィウスとアルベルティ																				
7. クリュニー修道院とル・トロネ修道院：聖なる空間の建築化 (II-06 ロマネスク建築)	15. 建築史における〈建築家〉の問題 (2)：ヴァイール・ド・オヌクールとヴィオレ＝ル＝デュク																				
8. アミアン大聖堂とサント＝シャペル：〈まことの光〉の建築構造 (II-07 ゴシック建築)																					

教科 No.	2338	授業科目	建築史 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○西田雅嗣			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          日本文化における建築とは何なのかを、古典的名著である太田博太郎著『日本建築史序説』を購読する事で学び、建物と人間の付き合い方の日本文化の特質を知る。建築や環境を巡る現在の様々な問題、あるいは我々の文化遺産に対して、主体的な眼差しを持てるようになるための基礎的な知識の習得の一つである。また、建築の鑑賞ということも知ってもらいたい。</p> <p><b>【授業概要】</b>          日本建築史界の碩学である太田博太郎の手になる古典的名著『日本建築史序説』を解題することを通じて、各時代の建築の特徴や重要性、史上の意味、あるいは日本建築の歴史的変遷プロセスなどを講述する。また、必要に応じて、『日本建築史序説』をヨーロッパ建築との比較しつつ読解し、『日本建築史序説』と日本建築の中に、ヨーロッパとは異なる日本建築の特質や日本人の建築観・歴史観を自覚的に読み取ることを試みる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 序論：〈建築〉、〈歴史〉、〈建築史〉</td> <td>9. 中世 (3)：14 和様の伝統、15 新様式と和様</td> </tr> <tr> <td>2. 古代 (1)：1 竪穴と高床</td> <td>10. 中世 (4)：16 中世建築の構造と意匠、18 寝殿造から書院造へ</td> </tr> <tr> <td>3. 古代 (2)：2 神社建築の発生</td> <td>11. 近世 (1)：20 新しい建築、新しい生産様式、21 城郭建築の勃興</td> </tr> <tr> <td>4. 古代 (3)：3 仏教建築の伝来、4 仏教建築の発展</td> <td>12. 近世 (2)：22 書院造の発展、23 茶室の発生、24 書院造の普及</td> </tr> <tr> <td>5. 古代 (4)：5 密教建築の特徴、6 神社建築の発達</td> <td>13. 近世 (3)：26 都市の発達、27 市民社会の建築</td> </tr> <tr> <td>6. 古代 (5)：7 浄土教建築の流行、8 建築様式の日本化、10 寝殿造の完成</td> <td>14. 近世 (4)：28 町家と農家、29 洋風建築の伝来</td> </tr> <tr> <td>7. 中世 (1)：11 大仏様と重源</td> <td>15. 日本建築の特質：日本人の建築観</td> </tr> <tr> <td>8. 中世 (2)：12 禅宗様の伝来、13 禅宗様建築の発展</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          自ら調べ、自ら考えて書くような、何らかの主体的な作業を必要とするレポート課題を果たし、その評点を評価とする。授業への出席回数が極端に少ない学生にはレポート提出を認めない場合もあるので注意する事。レポート課題は適当な時期の講義中に出席する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>          建築の画像や教科書の要点などを毎回パワーポイントで映しながら講義を行う。毎回の講義は、基本的に教科書の各章に対応しているため、講義の前には毎回必ず、当日の講義に対応する教科書該当箇所を読んで来るようにすること。</p> <p><b>【教科書】</b>          太田博太郎著 『日本建築史序説』 彰国社 2,940円 (税込み)</p> <p><b>【参考書等】</b>          ・日本建築学会編『日本建築史図集』彰国社 2,625円 (税込み)、西田雅嗣・谷ヶ崎善太郎編『図説 建築の歴史—西洋・日本・近代』学芸出版 2,940円 (税込み)、藤井恵介・玉井哲雄著『建築の歴史』中公文庫 中央公論新社 1,200円 (税込み)</p>						1. 序論：〈建築〉、〈歴史〉、〈建築史〉	9. 中世 (3)：14 和様の伝統、15 新様式と和様	2. 古代 (1)：1 竪穴と高床	10. 中世 (4)：16 中世建築の構造と意匠、18 寝殿造から書院造へ	3. 古代 (2)：2 神社建築の発生	11. 近世 (1)：20 新しい建築、新しい生産様式、21 城郭建築の勃興	4. 古代 (3)：3 仏教建築の伝来、4 仏教建築の発展	12. 近世 (2)：22 書院造の発展、23 茶室の発生、24 書院造の普及	5. 古代 (4)：5 密教建築の特徴、6 神社建築の発達	13. 近世 (3)：26 都市の発達、27 市民社会の建築	6. 古代 (5)：7 浄土教建築の流行、8 建築様式の日本化、10 寝殿造の完成	14. 近世 (4)：28 町家と農家、29 洋風建築の伝来	7. 中世 (1)：11 大仏様と重源	15. 日本建築の特質：日本人の建築観	8. 中世 (2)：12 禅宗様の伝来、13 禅宗様建築の発展	
1. 序論：〈建築〉、〈歴史〉、〈建築史〉	9. 中世 (3)：14 和様の伝統、15 新様式と和様																				
2. 古代 (1)：1 竪穴と高床	10. 中世 (4)：16 中世建築の構造と意匠、18 寝殿造から書院造へ																				
3. 古代 (2)：2 神社建築の発生	11. 近世 (1)：20 新しい建築、新しい生産様式、21 城郭建築の勃興																				
4. 古代 (3)：3 仏教建築の伝来、4 仏教建築の発展	12. 近世 (2)：22 書院造の発展、23 茶室の発生、24 書院造の普及																				
5. 古代 (4)：5 密教建築の特徴、6 神社建築の発達	13. 近世 (3)：26 都市の発達、27 市民社会の建築																				
6. 古代 (5)：7 浄土教建築の流行、8 建築様式の日本化、10 寝殿造の完成	14. 近世 (4)：28 町家と農家、29 洋風建築の伝来																				
7. 中世 (1)：11 大仏様と重源	15. 日本建築の特質：日本人の建築観																				
8. 中世 (2)：12 禅宗様の伝来、13 禅宗様建築の発展																					

教科 No.	2339	授業科目	日本美術史演習 1	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭・〇毛呂祐子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本美術史上重要な作品を実際に見学し、作品の基礎知識を身につけるとともに、日本美術史の流れを学習することによって、創作活動に生かし、実作品に即する美術史研究の基本を学ぶことを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 毎週、原則として近畿地方の寺社や博物館・美術館を訪ね、仏教美術を中心として、実際の作品に即して、基礎知識と日本美術史上の位置づけを授業する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)</td> <td style="width: 50%;">9. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>2. 見学授業</td> <td>10. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>3. 見学授業</td> <td>11. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>4. 見学授業</td> <td>12. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>5. 見学授業</td> <td>13. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>6. 見学授業</td> <td>14. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>7. 見学授業</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 見学授業</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末の試験の成績と、出席状況とを同等に評価する。 なお、全日程の半分以上の出席が必須。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 見学は午後の授業時間にも行うことがあるので、午後のほかの授業の履修は難しいことを予め承のこと。 なお、後期開講のNo.2340 日本美術史演習 2 も履修することが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。授業に必要な資料は配布する</p> <p><b>【参考書等】</b> なし。 ※備考 定員 40 名。履修希望者が定員を上回った場合は選抜を行う。 選抜方法などは学期はじめに別途掲示するので、教務課の掲示に注意すること。 毎回、入館料・拝観料・現地までの交通費などの実費が必要。 原則として見学先にて現地集合・解散とする。見学先までの移動には公共交通機関を利用すること。</p>						1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業	2. 見学授業	10. 見学授業	3. 見学授業	11. 見学授業	4. 見学授業	12. 見学授業	5. 見学授業	13. 見学授業	6. 見学授業	14. 見学授業	7. 見学授業	15. 試験	8. 見学授業	
1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業																				
2. 見学授業	10. 見学授業																				
3. 見学授業	11. 見学授業																				
4. 見学授業	12. 見学授業																				
5. 見学授業	13. 見学授業																				
6. 見学授業	14. 見学授業																				
7. 見学授業	15. 試験																				
8. 見学授業																					
教科 No.	2340	授業科目	日本美術史演習 2	単位数	週2コマ 2単位																
担当教員	礪波恵昭・〇毛呂祐子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本美術史上特徴ある作品を実際に見学し、作品の独自性に関する基礎知識を身につけるとともに、日本美術史の豊かさを学習することによって、創作活動に生かし、美術史研究の展開を学ぶことを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 毎週、原則として近畿地方の寺社や博物館・美術館を訪ね、日本美術史上特徴ある作品に即して、その独自性と日本美術史の多様性を授業する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)</td> <td style="width: 50%;">9. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>2. 見学授業</td> <td>10. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>3. 見学授業</td> <td>11. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>4. 見学授業</td> <td>12. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>5. 見学授業</td> <td>13. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>6. 見学授業</td> <td>14. 見学授業</td> </tr> <tr> <td>7. 見学授業</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 見学授業</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末の試験の成績と、出席状況とを同等に評価する。 なお、全日程の半分以上の出席が必須。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 見学は午後の授業時間にも行うことがあるので、午後のほかの授業の履修は難しいことを予め承のこと。 なお、前期開講のNo.2339 日本美術史演習 1 を履修しておくことが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。授業に必要な資料は配布する</p> <p><b>【参考書等】</b> なし。 ※備考 定員 40 名。履修希望者が定員を上回った場合は選抜を行う。 選抜方法などは学期はじめに別途掲示するので、教務課の掲示に注意すること。 毎回、入館料・拝観料・現地までの交通費などの実費が必要。 原則として見学先にて現地集合・解散とする。見学先までの移動には公共交通機関を利用すること。</p>						1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業	2. 見学授業	10. 見学授業	3. 見学授業	11. 見学授業	4. 見学授業	12. 見学授業	5. 見学授業	13. 見学授業	6. 見学授業	14. 見学授業	7. 見学授業	15. 試験	8. 見学授業	
1. ガイダンス (希望者が多い場合は選抜を行う。見学先予定表を配布する。)	9. 見学授業																				
2. 見学授業	10. 見学授業																				
3. 見学授業	11. 見学授業																				
4. 見学授業	12. 見学授業																				
5. 見学授業	13. 見学授業																				
6. 見学授業	14. 見学授業																				
7. 見学授業	15. 試験																				
8. 見学授業																					

教科 No.	2341	授業科目	現代美術批評 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○中井康之			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 現代美術を理解するために、そのツールとなるような基本的論理を学ぶ。 前半では欧米で築かれてきた美術批評の原理、後半では戦後の日本美術を形成してきた方法論と実践を概観する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 解読することが難解と思われる現代美術を読み解くために、その基本的な論理を歴史的な作品を参照しながら考えていく。併せて、開催されている展覧会なども適宜授業に取り入れる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス-美術作品と批評-</td> <td>9. 日本の戦後美術2 「実験工房」 2</td> </tr> <tr> <td>2. ボードレールの美術批評 1</td> <td>10. 日本の戦後美術3 「具体美術協会」 1</td> </tr> <tr> <td>3. ボードレールの美術批評 2</td> <td>11. 日本の戦後美術4 「具体美術協会」 2</td> </tr> <tr> <td>4. グリーンバーグの美術批評 1</td> <td>12. 日本の戦後美術5 「もの派」 1</td> </tr> <tr> <td>5. グリーンバーグの美術批評 2</td> <td>13. 日本の戦後美術6 「もの派」 2</td> </tr> <tr> <td>6. ポストモダンの美術 1</td> <td>14. 現代美術批評 1</td> </tr> <tr> <td>7. ポストモダンの美術 2</td> <td>15. 現代美術批評 2</td> </tr> <tr> <td>8. 日本の戦後美術1 「実験工房」 1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業に則ったレポート課題によって評価する。 美術作品を成立させている論理を読み解くことを基本にしながら、自らの考えを明確に論述しているか、その達成度によって評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 西欧、および日本の近代美術史の履修が済んでいることを前提に授業を進める。</p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 「グリーンバーグ批評選集」(勁草書房)、松井みどり「“芸術”が終わった後の“アート”」(朝日出版社)、「美術批評と戦後美術」(ブリュッケ)</p>						1. ガイダンス-美術作品と批評-	9. 日本の戦後美術2 「実験工房」 2	2. ボードレールの美術批評 1	10. 日本の戦後美術3 「具体美術協会」 1	3. ボードレールの美術批評 2	11. 日本の戦後美術4 「具体美術協会」 2	4. グリーンバーグの美術批評 1	12. 日本の戦後美術5 「もの派」 1	5. グリーンバーグの美術批評 2	13. 日本の戦後美術6 「もの派」 2	6. ポストモダンの美術 1	14. 現代美術批評 1	7. ポストモダンの美術 2	15. 現代美術批評 2	8. 日本の戦後美術1 「実験工房」 1	
1. ガイダンス-美術作品と批評-	9. 日本の戦後美術2 「実験工房」 2																				
2. ボードレールの美術批評 1	10. 日本の戦後美術3 「具体美術協会」 1																				
3. ボードレールの美術批評 2	11. 日本の戦後美術4 「具体美術協会」 2																				
4. グリーンバーグの美術批評 1	12. 日本の戦後美術5 「もの派」 1																				
5. グリーンバーグの美術批評 2	13. 日本の戦後美術6 「もの派」 2																				
6. ポストモダンの美術 1	14. 現代美術批評 1																				
7. ポストモダンの美術 2	15. 現代美術批評 2																				
8. 日本の戦後美術1 「実験工房」 1																					

教科 No.	2342	授業科目	現代美術批評 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	加須屋明子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 日本の近代以降の美術は、西欧化によって形成されてきた面もあるが、独自の美術を創り上げようとしてきた動きを論理と共に理解する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 20世紀末から21世紀にかけて、芸術はその領域を一層拡大し、新しいメディアを取り込みつつ肥大し続けている。 本講義においては、芸術とそれを巻き巻く環境との関わりに注目しつつ、現代美術の動向を探りながら、それらをいかに言語化し、有効に論じてゆけるのかを考えてみたい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 芸術と身体 2</td> </tr> <tr> <td>2. 芸術と自然 1</td> <td>10. 芸術と身体 3</td> </tr> <tr> <td>3. 芸術と自然 2</td> <td>11. 美術館建築とその周辺 1</td> </tr> <tr> <td>4. 芸術と自然 3</td> <td>12. 美術館建築とその周辺 2</td> </tr> <tr> <td>5. 芸術と社会 1</td> <td>13. 生存のエシックス</td> </tr> <tr> <td>6. 芸術と社会 2</td> <td>14. まとめ 1</td> </tr> <tr> <td>7. 芸術と社会 3</td> <td>15. まとめ 2</td> </tr> <tr> <td>8. 芸術と身体 1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業に則ったレポート課題によって評価する。 美術作品を成立させている論理を読み解くことを基本にしながら、自らの考えを明確に論述しているか、その達成度によって評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 現代美術批評 1 と合わせて履修することが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に指示する</p>						1. イントロダクション	9. 芸術と身体 2	2. 芸術と自然 1	10. 芸術と身体 3	3. 芸術と自然 2	11. 美術館建築とその周辺 1	4. 芸術と自然 3	12. 美術館建築とその周辺 2	5. 芸術と社会 1	13. 生存のエシックス	6. 芸術と社会 2	14. まとめ 1	7. 芸術と社会 3	15. まとめ 2	8. 芸術と身体 1	
1. イントロダクション	9. 芸術と身体 2																				
2. 芸術と自然 1	10. 芸術と身体 3																				
3. 芸術と自然 2	11. 美術館建築とその周辺 1																				
4. 芸術と自然 3	12. 美術館建築とその周辺 2																				
5. 芸術と社会 1	13. 生存のエシックス																				
6. 芸術と社会 2	14. まとめ 1																				
7. 芸術と社会 3	15. まとめ 2																				
8. 芸術と身体 1																					